# 眼が覚めたら自分の作ったオリキャラになってた!?

ぶらっく×４

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

## 注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。

この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

眼が覚めたら自分の作ったオリキャラになってた！？

【Ｎコード】

Ｎ２１８３Ｗ

【作者名】

ぶらっく×４

【あらすじ】

ある一人の青年が森の中で眼を覚ました

青年は森の中に居る事に唖然とするがもっと驚くべき異変に気づく

青年は自分が作ったオリジナルキャラクターの身体となっていたのだ！！

## 憑依　確認

なにこれ？

今目の前には木、木、木木木木木木木木木木木木木

木しかない

即ち森

なんかジ〇リっぽい森だ

見たこと無い

日本かどうかすら怪しいし見た事も聞いた事も無い植物も生えている

しかもなんか自分の背が異様に高くなっている気がする

前は１８０とかなりでかいつもりだったが今は恐らくあのときのオレを見下ろせる

恐らく１９０代後半と言ったところか？

しかも視界に入ってくる髪は銀髪

踝まである灰色のロングコート

甲に三本の線が入った少し薄めの灰色の手袋

そしてさっきから自分の頭に流れてくる記憶

これは間違いない

多分俺の瞳は血の様に紅く、眉は常に寄っていて不機嫌な感じだろう

もしオレがあいつなら……

そう考えてオレは後頭部を触ろうとする

だがその前に髪の感触がした

そしてその髪を一本抜くと

「……やはり、そうか……」

黒かった

視界に入る前髪は銀髪なのに後頭部に縛ってある髪は黒かった

確信した

これはオレが自分で小説を書こうと思って作ったオリジナルキャラクター

ギアル・レヴィン・レマルガイア・ヴァーゼだ

因みにいつもオレはギアルと呼んでいる

なぜか自分はどこかの森の中で自分のオリキャラのギアルに憑依…

……と言うのか？

まあいい

とにかく自分は今ギアルなのだ

だが正直言って嬉しい、そして三日前の自分を褒めちぎりたい

なぜなら三日前にギアルに新たな設定を加えたのだ

まあそれは良いとしてギアルについて説明しようと思う

ギアル・レヴィン・レマルガイア・ヴァーゼ

千年の時を生きた魔族

彼の持つ能力ほど恐ろしいものは無い

彼が持つ能力は二つ

『虚無の穴』

『時間操作』

虚無の穴とは異次元の穴を代償無しで自由自在に作り上げる能力

その穴は概念、時、存在、何もかもを通す力がある

大きさ、数、場所、総てがギアルの思い通りの場所に現れる
たとえ想像上の場所でも現れ、繋げば何処にでもいける
そして穴同士を繋げる事がこの能力の真髄
拳が迫っていても穴を作りその中に拳を入れて相手の腹の前に穴を開けて繋げる
そうすれば相手は自分の拳でダメージを受け、自分にはなんのダメージも無い
ギアルが使える並列思考京編制によれば死角など有りはしない
簡単に言えば最強な能力なのだ
そしてギアルは穴の中に自分で作り上げた亜空間倉庫の中に様々の物を入れてコピーを創りあげている
それはどんな物でも完璧なコピーを創り、亜空間ゆえに無限に物が入るという反則の倉庫であった
穴から中の物を打ち出す事も可能なのでその気になれば相手の周りに大量の穴を設置、そしてその穴から
同時に剣が飛び出し相手を串刺しにすると言う技もある
彼の作ったオリジナルキャラクターで最も強いキャラもギアルなのだ

恐らくこういう展開は
二次創作の世界
俺の居た所とはまったく関係ない関係ない異世界
ってのが
テンプレなんだよな……
もし二次創作なら登場人物を探す、関係ない異世界なら人脈を作る
事を最優先だ
ん？なんで登場人物を探すかって？
オレみたいなイレギュラーを世界が放って置く訳無いと考えたから
だな
もしそのままの身体で来たならこの世界の普通の普通の一生を送れ
るように必死になって頑張ったが
如何せんこの身体はオリキャラ最強のギアルだ
絶対何かに巻き込まれる
だったらこれからの事を考えてやっとく方が良いと考える
……おかしい、なんでオレはこんなに冷静なんだ？

本当なら錯乱しておかしくなってもそれが普通なのに……

いや、どうやら頭の中の記憶が答えをくれた

ギアルは生きるのが面倒臭くなって自分の魂を自分と言う存在を創ったオレに混ぜてそのまま異世界へと放り込んだらしい

迷惑ではないな、むしろ感謝する

退屈な日常に苛々していたんだ

これは心踊る別世界と言う奴か

だったら簡単

ギアルとなったオレは頭の中で想像した世界にすら行ける穴がある

つまりありとあらゆる世界に行ける力がある

なら色々な世界をまわって歩くのが一番じゃないか？

いや、別に歩かなくてもいいが……

とにかくオレは異世界旅行を楽しむとしよう

さて、まずは何処へ行こうかな？

## 戦闘　圧勝

歩いてすぐ分かった事は一つ

此処はＤグレの世界だ

何で分かったかって？

そりゃ突然ＡＫＵＭＡに襲われりゃ誰だって分かるだろう？

因みにレベル４が３体だった

最初は無理！！と思ったがギアルの思考になったせいかだんだん危機感が無くなってきて寧ろ余裕すら生まれてきた

そして襲い掛かってきたので戦ってみた所……

瞬殺だった

まず一体が普通の人間だと思いパンチしてきたのでギアルが最もよく使う穴の使用方法

相手の攻撃を穴を使ってそのまま返す技、『リフレクトホール』でパンチを相手の腹に返す

そのまま怯んでいるＡＫＵＭＡの頭を掴んで額に膝を叩き込んで粉砕

一体目

普通の人間だと思った相手がいきなりレベル４を倒した事に一瞬驚いたらしいがすぐに我に帰りあとの二体が両腕をガトリングにコンパート、オレに対して撃ってきたが

如何せんオレは穴の能力を持つギアルと一体化しているし

ギアルの並列思考京編制により何をしてくるかは分かりきっている

すぐに穴を開けて二体分の弾丸を一体の背中に撃ち込む

これには堪えた様でふらつくレベル４の足元に穴を開ける

行き先は火山の溶岩の真上

これなら完璧に壊せると思う

そのままふらつくレベル４の頭の上に穴を開けてそこから蹴り飛ばしてＩＮマグマ

二体目

そして残り一体のＡＫＵＭＡに上から穴を被せ別の所に開けた穴に通す

そのまま繋がっている穴を断ち切れば首を繋げていた空間が無くなった事によりＡＫＵＭＡの首を強制的に切断する

三体目

この様に初戦で一体に元帥すら一時てこずったレベル４を三体同時

に相手して無傷とはやはりギアルは強い

作り親としては結構嬉しいのは内緒だ

此処までチートとは嬉しい

だがあまり此処にそのまま居るのは得策ではないだろう

レベル４だけではない

３，２，１すべてそろって大勢居るらしいこの場を黒の教団が放って置く訳が無い

エクソシスト達がもうすぐ来るのは当たり前

このまま居ても原作キャラに会えるは会えるが怪しまれる

それは不味い

だったらさっさとずらかるとしよう

「ちょいまちな」

……どうやら見つかったようだ

「アンタ……何者？人間にしてはイノセンスも無いのに強すぎるがかといって俺らノアでもない……なにもんだ？」

後ろに振り返ると少し長めの黒髪にを紐で縛った飄々とした学が無いと自覚している馬鹿天パ

「なんか失礼な事考えられてる気がするんだが……」
「気のせいじゃねえのか？」
「……」
快楽を司るノア、ティキ・ミック卿
「んで？アンタなにもんだ？」
「……」
「……」
「……」
「……」
「……」
「……」
「蝙蝠の進化の果てだ」
これを聞いてものすごく分かりやすくずっこけるティキ
だが間違っては居ない
ギアルは魔族の中でも上位の吸血鬼である

蝙蝠の進化の果てと言ってもおかしくは無い
「ア、アンタ、ふざけてんのか？」
「いや、別にふざけちゃいねぇな、事実だ」
「……まあいい、アンタは此処に何をしに来た？」
「何を……ねぇ？」
「？」
別にオレは何かをしにきた訳ではない
ただ色々な世界を渡ろうと思っているだけである
面白そうな事があったらそこに首を突っ込んで回っていこうと思っているだけである
だったら簡単、すぐそこに面白そうな奴が居る
「……いいぜ、俺に勝ったら教えてやろう」
「は？……まあいいや、んじゃ終わらせるか！！！」
すぐに突っ込んできやがったな？
覚醒した身体能力に物を言わせてケリを付けるつもりか

だが、甘い

「俺の戦いを見ていなかったのか？『リフレクトホール』」

「ハッ！！だったらその穴に手を突っ込まなきゃ、ガハァ！？」

「（ニヤ）残念」

恐らく能力で触れないようにしたらしいが無駄だ

概念すら通してしまうこの穴にそんな能力は通じはしない

ロードの夢の世界から穴を使って脱出すら簡単にできるだろう

右手を黒くして思いっきりパンチしようとしたが穴に入って腹に還元

とっさに強化したのでそこまでダメージは無いらしいが驚きは隠せない様だ

「んじゃ、こっちからも行かせて貰うぜ？」

「チッ！！だったら……」

「遅い！

Ｗｈｏ　ａｒｅ　ｙｏｕ　！？　Ａｒｅ　ｙｏｕ　ｗｉｎｎｅｒ！？　ＮＯ！！　Ｉ'ｉｍ　ｗｉｎｎｅｒ！！

『Ｍｉｌｌｉｏｎ　ｈｏｌｅ』」

発動、『ミリオンホール』だ

ギアルが使える技で最も厄介な技

カッコつけている間にもティキの周りの穴は創られておりあっという間にティキの周りは穴だらけになる

「な、なんだ！？」

名前の通り相手を百万の穴で囲い込む

死角、避難場所、安全地帯、総てが皆無の穴地獄

「んじゃ……いくぜぇ！？精々耐え切ってみな！！」

「んだと……？……グガハッ！？」

実を言うと『ミリオンホール』自体はたいした技ではない

ただ穴を開けまくるだけの技だ

ただしこの技の厄介な所はそこじゃない

ギアルの持つ様々な穴の応用法全てに使えるのが特徴である

『リフレクトホール』然り亜空間倉庫から撃ちだす技、『ウェポンホール』然り

相手の血管の中に穴を開けてその穴に繋げた穴から大量の血を噴出させる『ブラッディホール』然り

実を言うとこの『ブラッディホール』、相手が生き物、又は身体の中に液体が流れている物相手ならこれを使えば終わりである

考えたのはオレだが反則である

まあ千年伯爵とかそーいうのは多分効かないだろうな

……恐らく次元ごと滅してしまえば流石に消えるだろうが……

「オラオラオラオラオラオラオラオラオラオラ！！！！！！！！」

「ちょっ、おまっ、それ、はんそkグヘッ！！」

え？何してるかって？

ミリオンホールでリンチ中だが？

まあ流石に殺しはしないように殴ってるだけだ

原作に何かあったら困るしな

ティキが黒くなれるってことは箱舟後か

もうアレンはクラウンクラウンになってるって事だな

コムビタン事件はまだか？

まあいいや、だいぶすっきりしてきたし

「がは……はぁっ、はぁっ、はぁっ、はぁっ、はぁっ……」

「……そろそろ行くか……」

「ま、待てよ……」

「あぁ？なんだ？オレは忙しいんだがな？」

「あんたの……名前は……？」

……こんな事聞いてくるとは予想外だったな

さてどうするか？

本名を言ってもいいが後々面倒な事になりそうだし

偽名だとばれた時はそれでそれで面倒だ

なんかＡＫＵＭＡの能力で名前に関するのとか出そうだし……

まあ簡単に壊せるがな

……だったら

「……ギアル・レヴィンだ」

ちなみにギアルのフルネームを知ってる奴なんて本人以外いない

答えは簡単、言わないか、覚えられないか

まあオレは覚えているが

「ギアルね……覚えとくわ……ごほっ」

「……じゃあな」

そのまま穴を足元に出して入る

さて、教団側に行ってみるとしようかな？

敵になるか味方になるかどちらでもないかはオレの気分しだいだがな……

## 潜入　狂気

黒の教団本部

「だぁぁぁぁ！！！アレンて何回言えば分かるんですかバカンダ！！！」

「うるせぇ似非紳士！！モヤシをモヤシと言って何が悪い刻むぞゴラ！！！」

「だからアレンといってるでしょう！？ああ神田は馬鹿ですからそんな簡単な事も覚えられないんでしたねどうもすいませんでした」

「……六幻抜刀！！」

「ハッ！！言い返せないなら暴力ですか！！良いですよ乗ってあげます！！クラウンクラウン！！」

「てめぇぇぇぇ！！！」

「はぁぁぁぁぁ！！！」

「いい加減にして！！！！！！」

「「ぐほっ！？」」

「何時も何時も二人は喧嘩して！！もう少し仲良く出来ないの！？」

「いや、だって神田が……」

「だからモヤシをモヤシといって何が悪いんだっつの」

「はぁ！？僕の名前はアレンですって何回言えば分かるんですこのバカンダ！！」

「てめぇやんのかコラ！？」

「上等ですよ！！」

「表出ろや！！」

「二人とも？（黒笑）」

（（ゾワッ））

……おいおい……

こっそり来てみて一番最初に見るのは馬鹿コンビの喧嘩かよ……

「む！なんか今馬鹿にされたような気がします！！具体的には神田と一緒にされたような……」

「はぁ！？ふざけてんのかてめぇ！？こっちこそ願い下げだ！！」

「当たり前でしょう！！僕だってこんなのと一緒にされたくないですよ！！」

「誰がこんなのだ！！」

「さぁ？誰でしょうね？」

「てめぇ！！！」

「……イイカゲンニシテホシイカナ？」

「「びくぅ！？」」

……リナリーつえーな……

エクソシストトップクラスの二人を脅すって……

まぁ納得できるがな

「で？そこの人は何時まで覗いているんですか？」

ほう……

「手抜きとは言えばれたとはな……賞賛に値するぞ」

「……僕にはＡＫＵＭＡの魂が見えるんですからね、分かりましたよ……！？」

「くくっ……残念だがその魂はオレの行動によってこうなったん

だ、オレはＡＫＵＭＡではないな」

「え……？」

まあ世界そのものの存在を消したり創造神たちを存在、記録、魂まで全てを消し去ってきたギアルの魂なんて凄まじいだろうな

「てめぇ……何者だ……？」

「おっと……いきなり人に刀を向けるものじゃないぞ、無駄だがな」

「何……？」

まったく、やはり神田は原作どおり短気だな

まあのんびりした神田なんて天地がひっくり返ってるのを間近に見ても想像出来ない位だしな

「ＡＫＵＭＡでもないし一応一般人だぜ？いきなり刀を向けてくるのはいけなんじゃねぇか？キカカカカ」

「……てめぇ」

……自分でこの嗤い方を設定したとはいえ凄いな……勝手に裏声になって甲高くなってる……

結構怖いな、ギアル特有の嗤い方……

因みに嗤いの文字はギアルには合っている

笑いではなく狂い嗤うからこそギアルなのだ

「……」

「おっと？其処の白髪の少年に言っておくとしよう、オレを斬っても魂はオレの物だからな此処までなっちまったら余りの穢れに物質化して人格無き災厄を齎す人形と成るだろうなぁ……そうなったらどうなっちまうかねぇ……キカカカカカッ」

「！？」

「キ……キキ……キカカカカカッ……ツマ、ツマラナイ……」

「おい、モヤシ……こいつただもんじゃねぇぞ……」

「キキャキャキャキャ、キカカカカカカッカ、クキキキキキ、ヒッヒヒヒヒヒハハッハハハハッハハハ！！！！皆々ツマラナイ！！」

嗚呼、ヤバいなぁ……

ギアルの狂化が始まっちまったよ……

そのまま放って置いても良いんだけど此処の世界が崩壊しちまうからな……

無理矢理止めるしかないな、かなりキツイが……

「な、何……？コレ……？」

やっぱ引かれてるね、まあ当たり前か

突然現れた大男が甲高い声で急に嗤いだしてきたんだからな

まあいい、止めるか

「カッカカカッカッカカカカカッ、カハァ！！……ゼェ、ゼェ、ゼェ……あぶねぇ～、危く狂化しちまう所だったぜ……」

「狂化だと？」

「そのままの意味で取りな、狂うってこった」

「……其処まで壊れているんですか」

「キカカカカカカカッ、壊れているだと？当たり前だ！！産まれた時より殺し殺し殺し刻み解体し並べ晒し焼き尽くし消し飛ばしてきたオレが壊れていないとでも？」

「……」

まあギアルの過去であってオレが体験した訳ではないが感じる

壊れたギアルの精神、其の物が物質化するほど濃厚な魂の穢れ

今まで浴びてきた敵味方の血肉、罵詈雑言

嗚呼……心地良イゾ……

……おっと……どうやら完全にギアルと一体化したようだな

オレの心まで壊れてきたらしい

まあ別に良いがな

元より大した人生でもなかったのに此処まで昇華させてくれたギアルに何の怒りを覚える必要がある？

始まったばかりだがやはりギアルが予想していた通りだ

物凄くオレにとって楽しい

おそらくギアルの中に存在しない寿命が来るまでオレは世界を回り続けるだろう

即ち永遠に

たとえ狂い滅ぼし世界を消したとしてもオレは後悔しない

それが其の世界の結末

オレに消される世界だっただけの事だ

自己中心的だろうがなんだろうが良い

なぜなら押し通す力が今のオレにあるから

だったら楽しむだけだ

さて？エクソシスト達よ

オレをどう楽しませてくれるのかな？

キ……キキ……キカカカカカカカ

キカカカカカカカカカカカカカカカカカカカカカカカカカカッ！！！！！！！

## 食事　決定

「……狂ってますね、凄まじいなんて言葉が馬鹿みたいに感じられるほど」

「キカカカカッ、どうも制御が上手くいかなくてなぁ、少し苦労してんだよこっちもなまったく……」

「まあ頑張ってください、ん！？これ凄く美味しいです！！」

「ん？そいつぁ日本の蝦夷っつー所にある野菜と其処で育てられた牛の肉に海鮮物を入れたカレーだな，、そりゃ旨いわな」

「美味しいです！！お代わりありますか！？」

「あぁ、あるぞ、どんどん食え」

「有難う御座います！！ガツガツ……」

「いったいどうしてこうなったの……？」

「……チッ」

現在黒の教団食堂

オレは厨房を借りて食事を作っている

え？前回の敵対雰囲気はどうなったって？

知らん

いつの間にか厨房に居ていつの間にかアレンと親しくなった

「所でギアルさん……だよね？一体何しに来たの？」

そーいえばアレンとだけ自己紹介しあったんだっけ

忘れてた

「……そーいやお前等の名前は？こっちゃ名乗っているのにそっちは名乗らないのか？アレン・ウォーカーは別として」

「あ！私はリナリー・リーよ」

「……神田だ」

「三点リーダの使いすぎだ」

「うるせぇ」

やはり無愛想無表情無感情な神田

コレなら多くに人に嫌われるのも無理はねぇな、うん

「で？ギアルさんは何者で何しに来たの？」

……さり気無く質問を増やしやがってこのキックボクサー娘が

「増えたな」

「揚げ足取らないで、答えて」

「キカカカカッ、オレがここに来た理由は簡単、暇だからだよ」

「は？どういう意味？」

「お前らにはオレが幾つに見える？」

因みにギアルの外見年齢は二十代後半に設定してある

「……三十代前半？」

「む……まあ良い、こう見えて最低千年は生きているぞ」

「！？」

老けて見られてのはすこし悲しいが……まあ人それぞれか、うん

……

「数えるのを止めたのが千年だからな、恐らく時を止めたのを入れたら一京は行くぞ」

「！？……イノセンスか？」

「キカカカカカカッ、白髪の少年がさっき言っていたのが聞こえていなかったのか？オレの魂はＡＫＵＭＡなんざ目じゃないぐらい穢れているんだぜ？んな奴が神の力なんて使えっかっつーの、キカカカカカカカッ」

「てめぇ……その気味悪い笑い方止めやがれ……聞いてて苛苛して来やがる」

「これか？キカカカカッ、どうも癖になっていてな？直そうとしても勝手にこの嗤い方になっちまうんだよ、諦めな」

「……ぶった切ってやろうか？」

ほう？

これは良いかもな

神田パワーアップのフラグが立ったかも知れない

なんでって？

そりゃギアルがオレの作ったオリキャラでオレが最強になる様に設定したからだ

そんな俺に勝つなんざ無理

だけど神田ならそう簡単に諦めはしないだろうし鍛錬を増やすだろうな

キカカカカッ、少しオレが揉んでやっても良いしな

「キカカカカカカッ、やれるもんならやってみな小童、お前如きの攻撃なんざ掠りもしねぇな」

「てめぇ！！」

だが……そのフラグを圧し折ってやろう

「ヒヒヒヒハハハハヒヒィ！！！！」

「！？」

「『メガトンパンチ』【１００ｋｍ】！！！」

「ごあぁ！？」

「「神田！？」」

神田が吹っ飛んで壁に当たる

ギアル自己流体術だ

ネーミングセンスはギアルが簡単で分かり易けりゃ別に良いってことでなんの捻りも無いがな

この体術は拳の重さ三種類と拳の速さ三種類に分かれる

『メガトン』百万トン

『ギガトン』十億トン

『テラトン』一兆トン
の重さ三つと
【１００ｋｍ】
【音速】
【光速】
の速さ三つ
この組み合わせで戦う
はっきり言って最大威力の『テラトン』の【光速】は酷すぎる
当たる当たらないの問題ではなく
ギアルの拳から出る衝撃波によって星が砕けるのが殆どだからだ
しかし最も相手にとって戦いにくい理由は構えが無い事
ありとあらゆるどんな体勢でも最低最高の一撃を放つことが出来る
そんな反則な体術に穴まで加わったら凶悪を超える
勝ち目は無い
そんで今神田に最も弱い『メガトン』の【１００ｋｍ】を当てたん

だが……

弱い

弱すぎる

こんなのと一緒じゃツマラナイ

ツマラナイツマラナイツマラナイツマラナイツマラナイツマラナイ
ツマラナイツマラナイツマラナイツマラナイツマラナイツマラナイ
ツマラナイツマラナイツマラナイツマラナイツマラナイツマラナイ
ツマラナイツマラナイツマラナイツマラナイツマラナイツマラナイ
ツマラナイツマラナイツマラナイツマラナイツマラナイツマラナイ
ツマラナイツマラナイツマラナイツマラナイツマラナイツマラナイ
ツマラナイツマラナイツマラナイツマラナイツマラナイツマラナイ
ツマラナイツマラナイツマラナイツマラナイツマラナイツマラナイ
ツマラナイツマラナイツマラナイツマラナイツマラナイツマラナイ
ツマラナイツマラナイツマラナイツマラナイツマラナイツマラナイ
ツマラナイツマラナイツマラナイツマラナイツマラナイツマラナイ
ツマラナイツマラナイツマラナイツマラナイツマラナイツマラナイ
ツマラナイツマラナイツマラナイツマラナイツマラナイツマラナイ
ツマラナイツマラナイツマラナイツマラナイツマラナイツマラナイ
ツマラナイツマラナイツマラナイツマラナイツマラナイツマラナイ
ツマラナイツマラナイツマラナイツマラナイツマラナイツマラナイ
ツマラナイツマラナイツマラナイツマラナイツマラナイツマラナイ
ツマラナイツマラナイツマラナイツマラナイツマラナイツマラナイ
ツマラナイツマラナイツマラナイツマラナイツマラナイツマラナイ
ツマラナイツマラナイツマラナイツマラナイツマラナイツマラナイ
ツマラナイツマラナイツマラナイツマラナイツマラナイツマラナイ
ツマラナイツマラナイツマラナイツマラナイツマラナイツマラナイ
ツマラナイツマラナイツマラナイツマラナイツマラナイツマラナイ
ツマラナイツマラナイツマラナイツマラナイツマラナイツマラナイ
ツマラナイツマラナイツマラナイツマラナイツマラナイツマラナイ
ツマラナイツマラナイツマラナイツマラナイツマラナイツマラナイ
ツマラナイツマラナイツマラナイツマラナイツマラナイツマラナイ
ツマラナイツマラナイツマラナイツマラナイツマラナイツマラナイ
ツマラナイツマラナイツマラナイツマラナイツマラナイツマラナイ
ツマラナイツマラナイツマラナイツマラナイツマラナイツマラナイ

ツマラナイツマラナイツマラナイツマラナイツマラナイツマラナイツマラナイツマラナイツマラナイツマラナイツマラナイツマラナイツマラナイツマラナイツマラナイツマラナイツマラナイツマラナイツマラナイツマラナイツマラナイツマラナイツマラナイツマラナイツマラナイツマラナイツマラナイツマラナイツマラナイツマラナイツマラナイツマラナイツマラナイツマラナイツマラナイツマラナイツマラナイツマラナイツマラナイツマラナイツマラナイツマラナイツマラナイツマラナイツマラナイ！！！！！！！！

キカカカカカカカカカッ………………今回ハ敵ニナルトショウ………

始マリノ夜ダ！！！！！！！！

**キャラ紹介……ところで画像ってどうやって付けるの？**

ギアル・レヴィン・レマルガイア・ヴァーゼ

神祖吸血鬼　１０００年から数えるのは止めたが恐らく時を止めた状態などを含めて１京を越える

見かけ二十代後半

髪は銀髪

ただし後ろに縛ってある髪はなぜか黒い

踝まである灰色のロングコート

瞳は血の様に紅く、眉は常に寄っていて不機嫌な感じ

性格は残虐、ドＳ、狂っている

凄まじすぎる狂気の持ち主にしてそれに劣らない悪意の持ち主

余りに長すぎる人生に飽き飽きして憑依者（主人公）の魂と自分の魂を混ぜ合わせて自分の人格を完全に消し去った

だが狂気は魂にまで刻まれていたため憑依者も狂気に染まった

楽しければ何でも良いという楽観主義の持ち主

憑依者によって己の狂気で押さえられずに世界一つが滅ぼうともそ

れが世界の運命だと言ってのける自己中心的性格もプラスされた
ただしそれを正当化するほど力の持ち主なので誰一人逆らえない

能力

『虚無の穴』

異次元の穴を代償無しで自由自在に作り上げる能力
穴は概念、時、存在、何もかもを通す力がある
大きさ、数、場所、総てがギアルの思い通りの場所に現れる
たとえ想像上の場所でも現れ、繋げば何処にでもいける
そして穴同士を繋げる事がこの能力の真髄
拳が迫っていても穴を作りその中に拳を入れて相手の腹の前に穴を開けて繋げる
相手は自分の拳でダメージを受け、自分にはなんのダメージも無い
簡単に言えば最強な能力
穴の中に自分で作り上げた亜空間倉庫の中に様々の物を入れてコピーを創りあげてることも可能

どんな物でも完璧なコピーを創り、亜空間ゆえに無限に物が入るという反則の倉庫

穴から中の物を打ち出す事も可能なのでその気になれば相手の周りに大量の穴を設置、そしてその穴から同時に剣が飛び出し相手を串刺しにすると言う技もある

最悪相手の脳や心臓に穴を開けてそのまま指を突っ込んでもいい

『時間操作』

そのまま

考える必要なし

止める、進める、戻す、早める、遅くする、飛ばす、固定する等ノーリスクでこれら総てが使える

範囲はギアルの思うがままにより相手にとって最悪すぎる

技

ギアル流体術

一つの技にメガトン系　ギガトン系　テラトン系の重さ１三つと１００ｋｍ　音速　光速の速さ三つがあるギアルのみが使える体術

『〇〇トンパンチ』【〇】

『〇〇トンキック』 ◘

『〇〇トンアッパー』 ◘

『〇〇トンアタック』 ◘

『〇〇トンクラッシュ』 ◘

ネーミングセンスは本人が分かりやすいからという事で気にしていない

## 興醒　暇潰

「……興醒めだな」

「うがぁ……！！ごほっ……」

神田が調子に乗っていたので叩きのめしたのだが面倒臭い事になったな

「……」（無言でクラウンクラウンを発動させて構えるアレン）

「よくも……！！」（結晶化したイノセンスを発動して構えるリナリー）

「キカカカカカッ、オレに勝てるとでも？言っておくが今のはオレが使える体術で最も弱い技だぜ？そんなので此処までやられてる奴と互角が二人程度で勝てるとでも思っているのか？」

甘いな、甘すぎる

此処までやられている神田を見ても戦おうとするとはな……

自分の状況を分からずただ感情に流されて戦おうとするとはまったく……

エクソシスト失格としか言いようが無いな

感情を乱さずにただ淡々と任務に挑むのが戦士に最も求められる事だ

それが出来ていないとは即ち死に繋がる可能性が広がる事を意味する

そんな事も理解できていないのか？

「……まあ良い、おっと、一つ忠告だ」

「なに？」

「クロウリーの近くに誰か一人でも配置しとけ、じゃないと後々大変な目に遭うぞ」

「どういうことですか！！」

「お前の紳士が木っ端微塵に破壊されたり」

「んな！？」

なんせゾンビ化するからな

ヨダレダラッダラの紳士？なにそれ美味しいの？って状態だ

キカカカカカッ

「命の危険は無いがな、黒の教団が一時停止するぜ」

「……証拠は？」

「キカカカカッ、ねぇな、オレの頭ン中でやったシュミレーションだしな」

「……」

「因みに原因は……」

「な、何と無く予想付くわ……」

「リナリーもですか……僕もです」

「何時も何時も仕事から逃げて半殺しにされているシスコンだ、此処までヒント言えば分かるだろ？」

「ほぼ答えじゃないですか！！」

「誰かは言っていないぞ」

「……まあそんな事あるのはコムイさん位ですしね……」

「キカカカカッ、さて、オレはそろそろ行くとしよう」

「待ちやがれ！！」

へぇ……流石はセカンドエクソシストだ

ちら見した時はボロッボロになっていたのにもう全快か

まあ……オレに対して六幻で刺突はねぇ……

「『リフレクトホール』、お前の攻撃はお前に還る、他者の痛みを知れ」

「!?、神田!!止まって!!」

「お腹に穴が!!」

「ハァ!?何言って、グッ!?」

アレンとリナリーが見たのは腹の前に開いた穴から飛び出した六幻に貫かれた神田

オレに対して点の攻撃は通じない

まあ別に面の攻撃でも線の攻撃でも範囲でも別に良いんだがな

全ては穴に堕ちて行く

「キカカカカッ、餓鬼共、オレに勝ちたいんならまずは……

人間捨てて化け(狂殺者)もんになって一兆の孤独を味わうこったな」

「！？」

「……それが貴方の力ですか……」

「キカカカカカカッ、さーて、そろそろ本当に行くとすっかな、あぁそうそう、忠告は無視すんなよ？ひでぇ目に遭うから」

「……一応コムイさんに言っておきます」

「キカカカカカカカッ、そうしとけ、じゃあな餓鬼共」

足元に穴を開けてそのまま落ちる

「テ……メェ……！！」

神田がなにやらすっげぇ目で睨み付けて居たが気にしない

さて……

引っ掻き回すとするか！！！

神が消しに来る？

ゴミが無量大数来ようとも所詮はゴミ、視界に入れた瞬間存在、魂、記録まで消してやる

世界の修正力？

そんな蟻にも劣る力が如何した？

何者もオレの永遠の娯楽は止める事は出来ないしこれはオレがやっている事は正しい

何故って？

オレが正しいとしたからだ

力ある者が正義となり力無き者が悪となる

意思有るものの理だ

即ちオレは何をしようとも正義となる

さぁて……

化け物の暇潰しの為……命令しよう

オレの掌で踊れ、人形共

## 遭遇　宿題

ふむ……

エクソシストをからかったは良いがほぼ確実に敵認定だろうな

恐らくノアからもだろう

因みにエクソシストの敵にはなると言ったがオレは別にノアの味方になるつもりは無い

そうなれば簡単に決着が付く

チートもバグも魔改造も生温いどころではないギアルが着いた陣営は勝利を得る

絶対、確実、１００％でだ

そんなのつまらない

つまらない瞬間などあってはならない

常に楽しみ常に愉しみ常に退屈を潰さなければならない

何故？

永遠の時を生き続けるオレは退屈ほどの敵は居ない
だからこそオレは常に娯楽を求め続ける
さて……エクソシストにノア……
この二つを引っ掻き回し楽しみ結果を見て世界を渡る
そして新たなる世界に渡りまた引っ掻き回す
同じ世界などありえない、あってはならない
さぁて……手始めは……
よし、ロードの宿題の手伝いにでも行ってみるか

狂殺者移動中……

こんなテロップ要らないと思うが……

どうやら千年伯爵はティキと二人でティータイムらしいな

つーか着ぐるみ脱げよ……暑苦しいだろ

まあいい、行くか

「んな！？アンタどっから来た！？」

「五月蝿いぞ馬鹿天パ」

「ひでぇ！！」

「じゃあなんだ？浮浪者とでも呼ぶか？」

「一応職には就いてる！！！」

「日雇いが殆どだろ？」

「うぐ……」

「しかも今仲間が働いている所の責任者なんて顔も合わせていないんだろ？無職としか言いようが無いな」

「うがぁ！！」

「無職の浮浪者のゴミ箱から拾ったビン底眼鏡を掛けた男……うむ、どこから見ても社会不適合者だな」

「ぐぬぬぬぬぅ……」

ふん、オレに対して舌戦を挑むなんぞ永久の時を生きていようが無駄だ

並列思考一京編制に勝てるとでも思っているのか

「……アナタは誰デスカ？？」

おぉ……本物の千年伯爵か……本当に？付けているな……

つーかデブッ！？

着ぐるみとはいえデブッ

「なにかものすご～く失礼な事考えられたヨウナ……？」

「気にするなおデブ」

「……太ってまセン、それであなたは誰デスカ？？」

「なに、通りすがりの狂殺者だ」

「狂殺者……？？」

「キカカカカカッ、あまりそう考えるな、千年伯爵」

「……ナゼ我輩の事ヲ？？」

「キカカッ、簡単な事だ、【アカシックレコード】、【根源】とも

呼ばれるな、これを言えば分かるだろ？」

「！？……ナルホド？」

「そんで……此処に来たわけだが……」

「……千年公」

「……ワケハ？？」

「ロードの宿題でも見てやろうかと思ってな」

「どうぞドウゾ？紅茶で飲みマスカ？？」

「貰うとしよう」

「ではこちらニ？」

「わかった」

「ちょっとまてぇぇぇぇぇぇぇぇぇぇい！！！！」

「うるさいデスヨ、ティキポン」

「……………プッ」

「笑うなぁぁぁぁぁぁぁ！！！つーか今の溜めは何だ！？なんか敵になるとかそんなのかと思ったのに宿題かよ！？」

「うるせぇな、あんまりうるせぇとハバネロスプレーぶっ掛けるぞ」

「いきなりギャグ物使い始めた！？」

「うるせぇっつの、オレの好物はハバネロだ、だったら食事にも使えて武器にもなるこれは便利だろ、だから常に百本は常備している」

「多っ！？つーかハバネロ好物って良く食えるな！？」

「やはり生が一番」

「キツ！？千年公のコーヒー級にきつい！！！」

……どうやらティキは完全に突っ込み型らしい

「所でどれ位たまっているんだ？」

「そうデスネェ……？、ざっと一部屋分位デショウカ？？」

「……おい千年公、一部屋分ってその部屋確かロードの屋敷に自室だったよな……？だったら普通の部屋二つ分はあるぞ」

「なら五分あれば全問正解で終わるな」

「速ぇ！？」

「よろしくお願いシマス？」

「任せろ」

「え？ちょ、まっ……」

さて、そろそろいくか

後ろで天パがなんか言っているが気にしない

では……並列思考分担、宿題に十編制、暇潰し計画に七千兆、残り思考は駆り休息とする

思考開始

……よし、これでいい

さぁ、やるか！！

**終了　失敗**

「終わりだ」

「わー♪スゴーイ♪」

「マジで終わらせやがった……規格外だ……」

「オォー?、凄いデスネェ?」

「ジャスト五分、０．０００００００００００００００００００１秒の誤差も無い」

「すげぇ！！」

「どーやったの?」

「脳内計算」

「それって暗算じゃねぇの?」

「気にするな天パ」

「天パ言うな！！」

宿題終了、一問のミスも無い

まぁ並列思考十個も使ったんだ、間違える訳が無い

「……オヤ？？これハ……？？」

「なになに～？……うわ」

「どうした？……なんだこりゃ……」

「あ？どうした？……って……やべ……やっちまった」

「……一つ聞きたいのデスガ……？」

「……あぁ」

「何故足し算引き算の問題にｘやらｙやらｎ等が出るんデスカ？？
最終的にナントカの定理の証明になっていマスヨ？？」

ギアルの頭脳を甘く見ていた……

一つで十分だったなこれは……

Ｄグレの時代じゃまだ解けていない定理の証明やら恐らくオレが生きていた時代では考えもしないような法則の証明やら魔術の根源に発生やら……

こんなもん提出すればやばい事になるな

「……すまん」

「どーするのこれ？みんな一枚ずつしかないよ？」

「うわ……やべ、俺出るわ、見てるだけで頭痛くなってくる……」

この馬鹿天パが……

「逃がしゃしねぇよ」

「鬼！！」

「神祖吸血鬼だ」

「なんかすげー重要な事カミングアウトしやがった！！」

「神祖！？」

「神祖……デスカ？」

「あぁ、まあ気にするな」

「無理だろ！！」

「わかったー」

「勿論デス？」

「え？俺だけ？」

まあ馬鹿は放って置いて「待て待て！！」放って置いて「……」

「要はこの宿題を元に戻せば良いんだろ？」

「でも～それが出来たら苦労しないよ」

「キカカカカカカカッ、オレに任せな」

まぁギアルの能力の中ではマイナーな方だがギアルは時を操る事も出来る

止める、進める、戻す、早める、遅くする、飛ばす、固定する等ノーリスクでこれら総てが使える

だったら簡単、宿題の紙の時をオレが書く前に戻せば良いだけだ

「んじゃ、《戻レ》」

え？簡単すぎる？ギアルが性格上こういう風に設定したんだし別に熱くなる必要も無いし似合わないしこういう簡単で捻りが無いほうがギアルらしい

「お～」

「ほう……？」

「……時か……？」

「その通り、紙の時をオレが書く前まで戻した」

「すごーい、じゃ、もっかいやろ♪……ティキ一人で」

「わかりマシタ？そういえば貴方のお名前ハ？？」

……こいつ等なら面白いし……良いだろう

本名を言ってやろう

狂気に穢れ

鮮血に穢れ

怨念に穢れ

恨みに穢れ

混沌に穢れ

魂の根源まで穢れきった絶対正義のギアルの本名……

ついでに狂気のつけておいてやろう

「ギアル・レヴィン・レマルガイア・ヴァーゼだ、しかと刻め小童

共」

「……濃厚すぎる狂気デスネ?、そんな物騒なものを持っていて良く存在できマスネ?我輩でもきついデスヨ?」

「……ボク始めて千年公以外で殺されると思ったよ」

「だー!!こんなもんどうすりゃいいんだぁ!!!」

「「「……」」」

「ん?どうした?」

この……馬鹿……

「「「空気を読め(読んでクダサイ?)」」」

「は?」

……はぁ

「少しは手伝おうと思ったが……もう良い、やめだやめ」

「え！？ちょっ、まっ」

「ではこちらニ？」

「あぁ……む？」

千年伯爵が部屋から出て行こうとするので付いて行こうとしたらロードに抱きつかれた

１４８ｃｍのロードと１９５ｃｍのギアル……

身長差がありすぎるな

父と娘でも通じる見かけ年齢差だし

まあ実際は先祖通り越して星が生まれた瞬間に生まれた生物と星が消える瞬間まで生きていた生物ぐらいの差があるな

星が生まれた瞬間に生物なんか居ないし消える瞬間なんて更に居る可能性が低いがな

「ねぇねぇ～なんて呼べばいいの～？」

「ギアルとでも呼べ、というかそれ以外で呼ばれたことが無い」

オレの設定の中でギアルを名前以外で呼んでいる奴なんて一人も居なかったしな

「えぇ～、つまんなーい」

「……と言われてもな……それとそこのおデブ、本気でオレのあだ名考えようとするな、ハバネロスプレーぶっかけんぞ」

「むぅ……仕方ありませんネ？諦めましょうロード？」

「ちぇ～」

「賢明な判断だ」

この二人とラビからのあだ名は絶対にいやだ

ティキポンとかティッキーとかクロウリーにクロちゃんだぜ？

いやだ

まあそれは置いといてこれからの計画を練るとしよう

……とっくに終わっているが

ま、ここはノアの一族と暫らく過ごすとしようか

面白そうだ

ティキを弄るのが

さて、これからがオレの娯楽の本当の始まりだ

始めよう！！永久の退屈に抵抗するために！！！

# 紅茶　日本

「……π=3.

1415926535　8979323846　26433832
79　5028841971　6939937510　58209
74944　5923078164　0628620899　86
28034825　3421170679　8214808651
　3282306647　0938446095　5058223
172　5359408128　4811174502　8410
270193　8521105559　6446229489　5
493038196　4428810975　665933446
1　2847564823　3786783165　271201
9091　4564856692　3460348610　454
3266482　1339360726　0249141273　
7245870066　0631558817　48815209
20　9628292540　9171536436　78925
90360　0113305305　4882046652　13
84146951　9415116094　3305727036
　5759591953　0921861173　8193261
179　3105118548　0744623799　6274
956735　1885752724　8912279381　8
301194912　9833673362　440656643
0　8602139494　6395224737　190702
1798　6094370277　0539217176　293
1767523　8467481846　7669405132　
0005681271　4526356082　77857713
42　7577896091　7363717872　14684

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 9 | 7 | 4 | 7 | 8 | | 0 | 5 | 4 | 8 | 4 | 0 | 9 | 3 | 5 | 7 | | 1 | 8 | 6 | 5 | 5 | 1 | 6 | 6 | 9 | 9 | | 5 | 4 |
| 7 | | 2 | 6 | 0 | 8 | 8 | 5 | 2 | 5 | 0 | 9 | | 4 | 7 | 9 | 1 | 1 | 0 | 3 | 9 | 3 | 8 | | 0 | 9 | 9 | 2 | 0 | 0 |
| 4 | 2 | 6 | 4 | 3 | 9 | 0 | 3 | | 8 | 0 | 8 | 5 | 7 | 7 | 6 | 1 | 1 | 5 | | 8 | 2 | 8 | 4 | 9 | 8 | 7 | 1 | 7 | 9 |
| 5 | 1 | 9 | 0 | | 8 | 4 | 7 | 9 | 3 | 9 | 2 | 0 | 1 | 3 | | 0 | 9 | 3 | 2 | 2 | 5 | 3 | 2 | 6 | 3 | 7 | 8 | 2 | 0 |
| | 6 | 2 | 2 | 4 | 1 | 6 | 9 | | 6 | 9 | 7 | 8 | 1 | 1 | 8 | 8 | 5 | 8 | | 3 | 3 | 4 | | 1 | 1 | 8 | 9 | 2 | 2 |
| 5 | 4 | 2 | 7 | | 5 | 6 | 6 | 9 | 6 | 6 | 7 | 7 | 5 | 5 | 2 | 2 | 4 | 6 | 8 | 5 | 5 | 9 | 8 | 7 | 5 | 8 | 3 | 8 | 7 |
| 7 | 1 | 9 | | 7 | 0 | 1 | 9 | 3 | 5 | 1 | 1 | 9 | 9 | 4 | 9 | 9 | 9 | 0 | 7 | 3 | 3 | 9 | 3 | 3 | 7 | 5 | 3 | 3 | 3 |
| 0 | 9 | 4 | 9 | 4 | 7 | 3 | 2 | 6 | 3 | 1 | 1 | 3 | 8 | 8 | 1 | 7 | 1 | 0 | 1 | 8 | 5 | 2 | 0 | 8 | 8 | 4 | 2 | 4 | 4 |
| 6 | 7 | 8 | 2 | 3 | 5 | 4 | 7 | | 9 | 3 | 7 | 4 | 6 | 7 | 7 | 7 | 7 | 1 | 0 | 1 | 9 | 5 | 1 | 3 | 1 | 3 | 3 | 9 | 9 |
| 7 | 4 | 9 | 6 | 4 | 7 | 3 | 2 | 6 | 3 | 7 | 7 | 6 | 6 | 7 | 8 | 8 | 8 | 0 | 0 | 3 | 7 | 5 | 8 | 5 | 5 | 9 | 9 | 9 | 8 |
| 4 | 9 | 2 | | 4 | 9 | 1 | 4 | 9 | 1 | 0 | 0 | 6 | 0 | 3 | 3 | 8 | 6 | 6 | 1 | 3 | 1 | 9 | 4 | 6 | 4 | 5 | 5 | 3 | 3 |
| 9 | 2 | 6 | 8 | 9 | 4 | 1 | 9 | 9 | 2 | 3 | 8 | 2 | 4 | 3 | 0 | 0 | 0 | 9 | 8 | 4 | 8 | 8 | 2 | 4 | 0 | 1 | 2 | 7 | 7 |
| 8 | 5 | 8 | 4 | 7 | 1 | 0 | 4 | 0 | 4 | 7 | 5 | 3 | 4 | 6 | 4 | | 6 | 6 | 0 | 2 | 4 | 0 | 5 | 6 | 9 | | 3 | 5 | 5 |
| 5 | 0 | 6 | 3 | 1 | 5 | 0 | 3 | 0 | 9 | 3 | 3 | 1 | 3 | 6 | 7 | 7 | 0 | 2 | 4 | 0 | 5 | 8 | | | | | | | |
| 8 | 6 | 1 | 8 | 2 | 4 | 6 | 3 | 1 | 5 | 0 | 2 | 4 | 3 | 0 | 0 | 9 | 3 | 4 | 1 | 2 | 9 | 3 | 9 | 1 | 9 | 2 | 1 | 1 | 1 |
| 5 | 8 | 6 | 1 | 8 | 2 | 4 | 1 | 9 | 9 | 2 | 7 | 2 | 6 | 0 | 9 | 3 | 4 | 1 | 0 | 9 | 8 | 4 | 8 | 8 | 2 | 4 | 0 | 1 | 2 |
| 8 | 6 | 2 | 8 | 6 | 1 | 8 | 2 | 4 | 4 | 5 | 8 | 8 | 6 | 1 | 8 | 2 | 9 | 5 | 3 | 8 | 1 | 8 | 2 | 0 | 9 | 5 | 2 | 5 | 5 |
| 6 | 0 | 5 | 9 | 4 | 5 | 8 | 8 | 6 | 1 | 9 | 3 | 4 | 1 | 5 | 0 | 6 | 9 | 5 | 8 | 8 | 9 | 0 | 7 | 5 | 0 | 6 | 0 | 6 | 0 |
| 2 | 2 | 4 | 9 | 5 | 3 | 4 | 3 | 0 | 1 | 4 | 5 | 8 | 5 | 3 | 7 | 1 | 0 | 2 | 4 | 0 | 5 | 8 | 5 | 8 | 2 | 0 | 2 | 0 | 2 |
| 4 | 6 | 5 | 4 | 9 | 5 | 8 | 5 | 3 | 7 | 1 | 0 | 1 | 1 | 0 | 1 | 0 | 1 | 9 | 9 | 5 | 6 | 1 | 1 | 1 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 5 | 1 | | 3 | 5 | 9 | 4 | 9 | 4 | 3 | 8 | 2 | 6 | | 6 | 8 | 6 | 8 | 8 | 2 | 5 | 7 | 2 | 1 | | 7 | 0 | 6 | 3 | 9 |
| 8 | 0 | 2 | 0 | 8 | 0 | 9 | 0 | 0 | 9 | 0 | 4 | 3 | 2 | 5 | 4 | 0 | 7 | 9 | 5 | 6 | 3 | 1 | 4 | 6 | 2 | 7 | 7 | 2 | 6 |
| 4 | 4 | 7 | 1 | 3 | 2 | 6 | 2 | 7 | 8 | 2 | 1 | 6 | 0 | 8 | 2 | 9 | 4 | 6 | 4 | 2 | 9 | 3 | 3 | 1 | 8 | 4 | 5 | 1 | 9 |
| 8 | | 4 | 7 | 7 | 6 | 5 | 5 | 4 | 7 | 5 | 7 | 4 | | 4 | 6 | 0 | 9 | 9 | 2 | 4 | 4 | 4 | 4 | 9 | 9 | 2 | 4 | 6 | 5 |
| 6 | 9 | 1 | 5 | 9 | 9 | 5 | 0 | 2 | 9 | 0 | 1 | 7 | 7 | 3 | 0 | 6 | 0 | 7 | 0 | 2 | 3 | 7 | 3 | 7 | 7 | 8 | 8 | 5 | 5 |
| | 7 | | 9 | 7 | 5 | 1 | 6 | 2 | 0 | 9 | 3 | 9 | 1 | 9 | 8 | 8 | 8 | 8 | 6 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 7 | 7 | 7 | 7 | 6 |
| 3 | 2 | 9 | 8 | 9 | 7 | 4 | 4 | 9 | 6 | 7 | 7 | 1 | 9 | 1 | 1 | 0 | 6 | 1 | 1 | 0 | 6 | 6 | 6 | 8 | 8 | 6 | 6 | 6 | 8 |
| 8 | 5 | 5 | 8 | 8 | 8 | 8 | 8 | 8 | 8 | 8 | 8 | 7 | 7 | 7 | 7 | 7 | 7 | 7 | 7 | 7 | 7 | 7 | 7 | 7 | 7 | 7 | 7 | 7 | 7 |
| 3 | 4 | 9 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 |
| 6 | 6 | 8 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 |
| 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 |
| 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 |
| 6 | 5 | 9 | 8 | 7 | 2 | 7 | 3 | 6 | 0 | 9 | 9 | 1 | 2 | 4 | 6 | 4 | 4 | 6 | 9 | 9 | 4 | 3 | 9 | 5 | 9 | 8 | 6 | 8 | 9 |
| 2 | 9 | 2 | 4 | 5 | 9 | 7 | 7 | 2 | 9 | 7 | 5 | 4 | 9 | 8 | 9 | 1 | 2 | 4 | 6 | 8 | 9 | 4 | 3 | 9 | 9 | 0 | 9 | 8 | 1 |
| 6 | 4 | 5 | 6 | 8 | 6 | 8 | 3 | 8 | 6 | 8 | 9 | 4 | 6 | 8 | 3 | 9 | 0 | 4 | 7 | 6 | 9 | 9 | 0 | 9 | 6 | 8 | 2 | 0 | 3 |
| 0 | 6 | 9 | 8 | 8 | 8 | 8 | 8 | 8 | 8 | 8 | 8 | 8 | 8 | 8 | 8 | 8 | 8 | 8 | 8 | 8 | 8 | 8 | 8 | 8 | 8 | 8 | 8 | 8 | 8 |
| 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 |
| 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 |
| 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 |
| 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 |
| 0 | 9 | 3 | 0 | 9 | 8 | 1 | 0 | 0 | 7 | 0 | 7 | 7 | 7 | 7 | 7 | 7 | 7 | 7 | 7 | 7 | 7 | 7 | 7 | 7 | 7 | 7 | 7 | 7 | 7 |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 8 | 3 | 8 | 5 | 6 | 1 | 6 | 0 | 0 | 9 | | 4 | 6 | 5 | 5 | 5 | 9 | 3 | 7 | 1 | 3 | | 9 | 9 | 3 | 0 | 0 | 0 | 7 | 8 |
| 2 | 7 | 1 | 6 | 9 | 7 | | 6 | 2 | 6 | 0 | 5 | 9 | 4 | 4 | 5 | 4 | | 8 | 5 | 1 | 9 | 3 | 6 | 8 | 1 | 7 | 8 | | 0 |
| 5 | 7 | | 7 | 1 | 9 | 6 | 7 | 1 | 8 | 7 | 7 | 5 | 8 | 2 | 1 | 7 | 6 | 2 | 0 | 4 | 4 | 6 | 3 | 2 | 5 | 9 | 9 | 8 | 5 |
| 6 | 8 | 9 | 9 | 2 | 9 | 3 | 4 | 8 | 4 | 8 | 3 | 3 | 5 | 8 | 3 | 5 | 5 | 4 | 3 | 3 | 3 | 8 | 4 | 4 | 6 | 6 | 4 | 9 | 1 |
| 2 | 0 | 7 | 9 | 3 | 7 | 4 | 9 | 5 | 5 | 5 | 9 | 6 | 2 | 4 | 5 | 9 | 9 | 9 | 5 | 2 | 3 | 5 | 8 | 8 | 8 | 8 | 9 | 4 | 2 |
| 5 | 3 | 9 | 4 | 0 | 9 | 1 | 1 | 6 | 1 | 1 | 2 | 3 | 2 | 1 | 3 | 0 | 8 | 8 | 4 | 1 | 2 | 4 | 5 | 6 | 6 | 6 | 5 | 5 | 5 |
| | 6 | 0 | 5 | 0 | 7 | 9 | 9 | 1 | 4 | 4 | 4 | 7 | 4 | 4 | 7 | 2 | 2 | 2 | 2 | 3 | 1 | 4 | 4 | 8 | 8 | 8 | 8 | 8 | 8 |
| | 6 | 1 | 2 | 1 | 8 | 9 | 1 | 9 | 8 | 1 | 4 | 4 | 1 | 4 | 4 | 9 | 9 | 9 | 9 | 1 | 9 | 9 | 9 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 |
| 0 | 9 | 5 | 9 | 9 | 0 | 1 | 1 | 1 | 7 | 1 | 1 | 1 | 1 | 5 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| 1 | 0 | 4 | 1 | 7 | 8 | 7 | 9 | 9 | 3 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 |
| 4 | 6 | 9 | 6 | 4 | 5 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 |
| 2 | 7 | 7 | 5 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| 1 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 |
| 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 |
| 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 |
| 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 |
| 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 |
| 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 |
| 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 |
| 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 |
| 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 |
| 7 | 7 | 7 | 7 | 7 | 7 | 7 | 7 | 7 | 7 | 7 | 7 | 7 | 7 | 7 | 7 | 7 | 7 | 7 | 7 | 7 | 7 | 7 | 7 | 7 | 7 | 7 | 7 | 7 | 7 |
| 7 | 7 | 7 | 7 | 7 | 7 | 7 | 7 | 7 | 7 | 7 | 7 | 7 | 7 | 7 | 7 | 7 | 7 | 7 | 7 | 7 | 7 | 7 | 7 | 7 | 7 | 7 | 7 | 7 | 7 |
| 8 | 8 | 8 | 8 | 8 | 8 | 8 | 8 | 8 | 8 | 8 | 8 | 8 | 8 | 8 | 8 | 8 | 8 | 8 | 8 | 8 | 8 | 8 | 8 | 8 | 8 | 8 | 8 | 8 | 8 |
| 8 | 8 | 8 | 8 | 8 | 8 | 8 | 8 | 8 | 8 | 8 | 8 | 8 | 8 | 8 | 8 | 8 | 8 | 8 | 8 | 8 | 8 | 8 | 8 | 8 | 8 | 8 | 8 | 8 | 8 |
| 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 |
| 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 |
| 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 |
| 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 2 | 7 | 1 | 9 | 2 | 3 | 3 | | 8 | 5 | 6 | 8 | 3 | 7 | 8 | 7 | 5 | 7 | | 7 | 7 | 2 | 2 | 5 | 0 | 1 | 5 | 8 | 7 | |
| 1 | 6 | 1 | | 9 | 0 | 2 | 9 | 8 | 9 | 4 | 9 | 8 | 6 | | 1 | 1 | 1 | 9 | 0 | 9 | 0 | 3 | 1 | 6 | | 7 | 1 | 4 | 7 |
| 3 | 6 | 0 | 2 | 1 | 3 | 5 | 7 | 9 | 4 | | 3 | 7 | 1 | 3 | 1 | 3 | 8 | 0 | 6 | 1 | | 0 | 5 | 4 | 6 | 9 | 9 | 4 | 7 |
| 1 | 9 | 0 | 1 | 3 | 2 | | 1 | 5 | 6 | 2 | 2 | 3 | 8 | 1 | 0 | 6 | | 9 | 9 | 9 | 5 | 5 | 6 | 1 | 3 | 6 | 0 | | 3 |
| 4 | 8 | | 1 | 2 | 0 | 9 | 2 | 7 | 1 | 0 | 2 | 4 | | 5 | 3 | 9 | 3 | 1 | 5 | 8 | 3 | 5 | 7 | | 5 | 2 | 7 | 2 | 4 |
| 4 | 3 | 4 | 2 | 7 | 3 | 7 | 0 | 5 | | 4 | 6 | 5 | 3 | 0 | 1 | 8 | 5 | 5 | 7 | | 2 | 8 | 7 | 4 | 7 | 6 | 1 | 8 | 5 |
| 9 | 8 | 4 | 0 | 6 | | 4 | 8 | 7 | 6 | 6 | 1 | 5 | 5 | 1 | 4 | | 2 | 2 | 2 | 4 | 9 | 7 | 1 | 0 | 4 | 8 | | 5 | 4 |
| 5 | | 9 | 1 | 5 | 8 | 6 | 4 | 1 | 3 | 7 | 8 | | 1 | 9 | 1 | 8 | 0 | 8 | 2 | 1 | 2 | 6 | | 1 | 7 | 5 | 0 | 0 | 9 |
| 7 | 9 | 2 | 9 | 6 | 2 | 3 | 4 | | 7 | 5 | 5 | 2 | 5 | 7 | 2 | 2 | 9 | 0 | | 4 | 8 | 3 | 5 | 1 | 3 | 6 | 4 | 7 | 2 |
| 6 | 5 | 9 | 1 | | 4 | 6 | 3 | 2 | 1 | 2 | 4 | 8 | 5 | 0 | | 0 | 3 | 1 | 0 | 8 | 1 | 1 | 7 | 0 | 6 | | 8 | 3 | 0 |
| | 2 | 3 | 3 | 1 | 9 | 6 | 3 | 8 | 8 | 5 | | 3 | 6 | 1 | 6 | 9 | 5 | 7 | 9 | 4 | 9 | | 7 | 9 | 3 | 1 | 6 | 2 | 2 |
| 8 | 2 | 2 | 0 | 8 | 0 | 7 | | 2 | 0 | 9 | 8 | 3 | 5 | 6 | 7 | 1 | 3 | | 1 | 8 | 1 | 7 | 0 | 7 | 8 | 0 | 3 | 5 | |
| 5 | 8 | 1 | | 0 | 3 | 3 | 5 | 8 | 2 | 0 | 9 | 1 | 0 | | 1 | 4 | 9 | 3 | 7 | 8 | 8 | 6 | 0 | 1 | | 0 | 3 | 1 | 6 |
| 7 | 6 | 5 | 2 | 9 | 7 | 0 | 7 | 9 | 7 | | 6 | 6 | 8 | 5 | 1 | 4 | 6 | 5 | 5 | 2 | | 3 | 4 | 2 | 4 | 5 | 1 | 8 | 0 |
| 2 | 8 | 1 | 0 | 3 | 5 | | 3 | 0 | 0 | 7 | 3 | 3 | 8 | 1 | 1 | 4 | | 0 | 6 | 9 | 2 | 5 | 2 | 0 | 0 | 5 | 7 | | 5 |
| 6 | 4 | | 3 | 7 | 8 | 5 | 2 | 5 | 9 | 0 | 2 | 5 | | 5 | 3 | 2 | 5 | 6 | 7 | 1 | 6 | 9 | 0 | | 5 | 0 | 3 | 6 | 4 |
| 2 | 7 | 6 | 3 | 7 | 9 | 8 | 6 | 9 | | 9 | 1 | 5 | 4 | 1 | 6 | 1 | 7 | 7 | 1 | | 1 | 4 | 3 | 6 | 2 | 8 | 4 | 6 | 1 |
| 4 | 8 | 0 | 0 | 3 | | 3 | 5 | 2 | 8 | 1 | 3 | 0 | 9 | 1 | 9 | | 2 | 1 | 1 | 6 | 8 | 2 | 3 | 2 | 5 | 1 | | 6 | 4 |
| 3 | | 8 | 3 | 4 | 8 | 6 | 4 | 3 | 1 | 5 | 2 | | 0 | 6 | 9 | 0 | 5 | 2 | 6 | 4 | 6 | 1 | | 8 | 7 | 0 | 6 | 0 | 6 |
| 3 | 3 | 4 | 8 | 4 | 5 | 0 | 8 | | 9 | 4 | 9 | 7 | 9 | 8 | 0 | 0 | 1 | 7 | | 4 | 1 | 8 | 7 | 0 | 1 | 6 | 4 | 0 | 6 |
| 4 | 1 | 2 | 0 | | 2 | 4 | 9 | 2 | 9 | 8 | 3 | 6 | 9 | 5 | | 6 | 2 | 4 | 7 | 7 | 2 | 7 | 8 | 4 | 4 | | 9 | 2 | 5 |
| | 2 | 4 | 1 | 4 | 4 | 1 | 3 | 3 | 4 | 1 | | 4 | 8 | 1 | 8 | 7 | 1 | 8 | 2 | 0 | 5 | | 6 | 3 | 5 | 6 | 6 | 1 | 9 |
| 4 | 3 | 4 | 9 | 0 | 3 | 4 | | 3 | 3 | 4 | 3 | 7 | 9 | 7 | 6 | 5 | 0 | | 2 | 6 | 8 | 3 | 9 | 9 | 9 | 5 | 5 | 3 | |
| 1 | 5 | 4 | | 3 | 7 | 2 | 8 | 2 | 0 | 1 | 0 | 9 | 8 | | 5 | 1 | 8 | 5 | 9 | 0 | 6 | 1 | 9 | 0 | | 8 | 1 | 2 | 2 |
| 8 | 5 | 8 | 7 | 0 | 4 | 8 | 2 | 6 | 9 | | 8 | 1 | 5 | 1 | 8 | 0 | 3 | 8 | 1 | 9 | | 2 | 3 | 3 | 1 | 7 | 4 | 4 | 5 |
| 9 | 2 | 5 | 6 | 7 | 4 | | 3 | 0 | 9 | 6 | 9 | 8 | 9 | 4 | 5 | 3 | | 3 | 0 | 5 | 7 | 5 | 6 | 9 | 0 | 9 | 5 | | 2 |
| 3 | 6 | | 2 | 0 | 1 | 1 | 9 | 9 | 2 | 5 | 8 | 5 | | 3 | 1 | 3 | 5 | 2 | 9 | 7 | 3 | 1 | 0 | | 2 | 6 | 3 | 3 | 0 |
| 0 | 5 | 9 | 1 | 7 | 7 | 3 | 1 | 7 | | 4 | 5 | 3 | 9 | 7 | 6 | 4 | 7 | 2 | 8 | | 2 | 4 | 0 | 7 | 8 | 9 | 9 | 4 | 1 |
| 3 | 8 | 6 | 1 | 4 | | 8 | 1 | 2 | 4 | 9 | 7 | 5 | 8 | 6 | 3 | | 9 | 2 | 1 | 5 | 1 | 7 | 7 | 5 | 9 | 9 | | 0 | 4 |
| 9 | | 3 | 0 | 6 | 0 | 8 | 9 | 9 | 4 | 8 | 0 | | 2 | 5 | 9 | 6 | 1 | 8 | 6 | 2 | 5 | 1 | | 9 | 7 | 8 | 0 | 8 | 9 |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 7 | 6 | 8 | 2 | | 1 | 0 | 0 | 9 | 2 | 5 | 6 | 0 | 1 | 5 | | 4 | 0 | 2 | 7 | 3 | 5 | 7 | 6 | 5 | 9 | | 0 | 1 | 6 |
| | 3 | 9 | 2 | 8 | 4 | 9 | 3 | 3 | 1 | 0 | | 9 | 4 | 4 | 5 | 5 | 0 | 0 | 0 | 4 | 5 | | 1 | 6 | 6 | 4 | 5 | 8 | 8 |
| 3 | 9 | 8 | 3 | 1 | 2 | 4 | | 8 | 0 | 1 | 7 | 7 | 0 | 0 | | 8 | 7 | | 2 | 4 | 6 | 3 | 1 | 7 | 2 | 7 | 2 | 9 | |
| 6 | 3 | 6 | | 3 | 5 | 8 | 1 | 9 | 7 | 1 | 5 | 2 | 2 | 2 | 7 | 0 | 7 | 5 | 0 | 4 | 4 | 2 | 9 | 9 | 0 | 6 | 6 | 1 | 6 |
| 0 | 7 | 6 | 7 | 7 | 8 | 5 | 9 | 7 | 3 | 4 | 5 | 8 | 8 | 0 | 7 | 8 | 5 | 6 | 2 | 3 | 3 | 8 | 4 | 4 | 3 | 1 | 8 | 9 | 5 |
| 9 | 9 | 4 | 7 | 5 | 0 | 1 | 3 | 1 | 0 | 0 | 9 | 2 | 3 | 9 | 9 | 7 | 4 | 2 | 3 | 0 | 5 | 3 | 8 | 1 | 8 | 8 | 5 | 5 | 2 |
| 6 | 0 | 9 | 1 | 4 | 3 | 4 | 1 | 1 | 1 | 4 | 7 | 5 | 7 | 5 | 1 | 2 | 7 | 7 | 8 | 7 | 2 | 3 | 9 | 4 | 4 | 1 | 6 | 6 | 7 |
| 5 | 4 | 5 | 9 | 1 | 7 | 2 | 1 | 7 | 5 | 1 | 8 | 9 | 0 | 3 | 7 | 5 | 2 | 5 | 5 | 8 | 6 | 7 | 6 | 5 | 5 | 2 | 9 | 6 | 5 |
| 7 | 1 | 0 | 6 | 3 | 2 | 1 | 7 | 9 | 1 | 7 | 8 | 9 | 5 | 7 | 3 | 1 | 5 | 8 | 0 | 5 | 2 | 3 | 5 | 8 | 0 | 8 | 2 | 6 | 9 |
| 1 | 6 | 1 | 7 | 1 | 8 | 5 | 3 | 0 | 6 | 1 | 4 | 2 | 2 | 8 | 5 | 9 | 9 | 4 | 7 | 3 | 3 | 9 | 9 | 0 | 7 | 9 | 6 | 5 | 4 |
| 8 | 7 | 6 | 4 | 7 | 6 | 4 | 7 | 7 | 7 | 2 | 6 | 2 | 4 | 7 | 6 | 4 | 7 | 3 | 7 | 6 | 1 | 2 | 5 | 5 | 1 | 7 | 7 | 9 | 1 |
| 3 | 0 | 8 | 0 | 8 | 5 | 9 | 9 | | 0 | 4 | 8 | 0 | 1 | 2 | 8 | 7 | 0 | 8 | 5 | 9 | 4 | 7 | 1 | 5 | 5 | 7 | 4 | 7 | 4 |
| 2 | 1 | 4 | 7 | 6 | 4 | 7 | 7 | 2 | 6 | 2 | | 4 | 8 | 0 | 1 | 2 | 4 | 2 | 8 | 6 | 6 | 4 | 5 | 1 | 7 | | 1 | 2 | 7 |
| 6 | 4 | 1 | 7 | 5 | 1 | 8 | | 2 | 9 | 7 | 9 | 8 | 6 | 6 | | 2 | 8 | 5 | 3 | 3 | 4 | 6 | 6 | 4 | 0 | 5 | 6 | 6 | 0 |
| 5 | 2 | 6 | 9 | 2 | 5 | 4 | 7 | | 2 | 9 | 6 | 1 | 4 | 5 | 8 | 9 | 0 | 1 | 4 | 7 | 5 | 0 | 3 | 2 | 8 | 5 | 8 | 7 | 8 |
| 4 | 6 | 3 | 8 | 4 | 3 | 3 | | 6 | 3 | 3 | 2 | 1 | 7 | 5 | 1 | 8 | 9 | 9 | 4 | 7 | 1 | 3 | | 2 | 9 | 6 | | 4 | 6 |
| 1 | 6 | 6 | 3 | 0 | 6 | | 4 | 8 | 7 | 3 | 6 | 6 | 9 | 2 | 5 | 4 | 7 | 1 | 4 | 5 | 8 | 9 | 0 | 1 | 4 | 7 | 4 | 6 | 6 |
| 6 | 8 | 2 | 4 | 3 | 4 | 1 | 0 | 6 | 8 | 8 | 6 | 6 | 5 | 5 | 7 | 7 | 9 | 8 | 6 | 6 | 5 | 5 | 7 | 3 | 1 | 0 | 9 | 8 | 2 |
| 1 | 5 | 4 | 4 | 1 | 1 | 0 | 4 | 4 | 6 | | 8 | 2 | 3 | 2 | 5 | 2 | 7 | 1 | 6 | 2 | | 0 | 1 | 7 | 3 | 0 | 9 | 2 | 5 |
| 6 | 8 | | 6 | 4 | 2 | 4 | 3 | 4 | 1 | 0 | | 7 | 6 | 9 | 7 | 8 | 0 | | 2 | 8 | 0 | 7 | 3 | | | | | | |

6274　8888007869　2560290228　472
1040317　2118608204　1900042296
6171196377　9213337551　1495950 1
56　6049631862　9472665473 6　4252 23
0817 77　0367515906　7350235072　83
5405670 4　0386743513　6222247715
　8915049530　9844489333　0963408
780　7693259939　7805419341　4473
7744 18　4263129860　8099888687　4
1326047 21　……」

「スゴーイ♪」

「すごいデスネェ？」

え？何しているかって？

見ての通り円周率の計算だが？

因みに書かれているのは５０００桁までだ

しかしつまらん

今は並列思考一つだがギアルの頭脳なら三つあれば完成するだろうな

３分で

「うあぁ～……おい……ギアル、手伝え」

あれから三週間たった
オレは千年伯爵の屋敷に客として住んでいる
しょっちゅうロードの屋敷にティキと千年伯爵と行くんだが
毎回毎回ロードは宿題を貯めている
それをティキが終わらせる
無論一人で
まあ少しは手伝ってやってるがな
だがこれ以上は……
「却下」
「……だと思った」
「たりめーだ、さっさとやれ、オレの厚意を無駄にする気か？」
「厚意なら人の周りの時間だけ遅くして宿題をさせないと思うぞ」
「お前の頭なら何時まで経っても終わらない、だったらロードが困る、オレが時間を遅くする、解決、だろ？」
何を当たり前のことを……
「いやいやいや、お前のその頭ならもっと早く終わるだろ？お前が

やったほうが早いっつの」

「……オレの宿題をやれと？さっき時を止めてやってみたが何回やっても定理の証明やら世界の始まりやら新たな法則の発見やら原子の製造方法やらやばい事になるぞ」

しかも確認していたが無意識にやっているのに同じ定理や法則や発見は一つもなかった

約１００００もの世紀の新発見が書かれた宿題……出せるわけが無い

「聞いた俺が馬鹿だった」

「元々お前は馬鹿だ」

「うぐ……」

「無駄口叩く暇があったらさっさとやれ……ふむ……どちらかと言えばオレは日本茶が好きなんだがこれはイケるな」

現在ロードの部屋でティータイムだ

ギアルに俺と同じ感性を付けといて良かったと思うな

精神（オレ）と身体（ギアル）が一致しないとはどういうものかは知らないが何かしら違和感があっただろうからな

ギアルは日本好きでどちらかと言うと薄味が好きだ

茶も日本茶が好みなんだがこの紅茶は結構イケるな……

やはり高級な物は好みを超えるのか？

否、上に行けば行くほど好きな人には好かれるが好きではない者には敬遠される物も多いからな

偶然だろう

「へぇ～、見掛けに合わないね」

「気にしてはいるんだがな、まあ良い、オレの個人の意見だが日本は最も戦闘に合わず、戦闘に適した武器を作った国、だな」

「？、どういう事デスカ？？」

「日本刀ほど扱いに苦労する剣は無い、素人が斬れば二、三人で血肉と油に塗れあっという間に斬れなくなるだろう」

そんなもの鈍らにも劣る

「？、でもぉ、あのエクソシストはバッサバッサＡＫＵＭＡ斬ってるよ？オイルが滅茶苦茶付いてるよ？」

？……あぁ……神田ユウか……大した事無かったな

日本刀の使い方は一丁前だったがな

「それが玄人の技だ、使いこなしている者は血肉が付かずに人を斬る術を心得ているからな、それを考えてみれば刀と言うものは論理

的に言ってしまえば半永久的に人を斬り続ける事が可能だ、鎧等に当てない限りな」

「シカシ……？」

「そう、鎧に当てずに相手を斬る、そんな凄まじい玄人がどこに居る？そう滅多には居まい、鎧対策として突きもあるが難しいしな」

「ナルホド……？」

「だから使い難いんだ～」

「そーゆーこった」

「へぇ～……」

「西洋の剣と言うものはどちらかと言うと叩き潰すや叩き切るといった刀身に負担が掛かる使い方が多い、レイピア等はその物が脆いしな」

「ですが日本刀は使い手次第によっては負担が殆ど無いと言う事デスネ？？」

「その通り」

「へぇ～」

「……あんた等何か刀談義してるの？」

こいつ……まだ終わってないくせに

「うるせぇぞ天パ、話に加わりたけりゃさっさと終わらせろ」

「ティッキーウルサイ」

「ティキポン?、宿題はまだデスカ??」

三連続口撃だ、さて?、ダメージは?

「何で俺ばっかこんな目に!!!」

会心の一撃のようだ

しかし……

「は?分かっていなかったのか?」

「嘘でしょティッキー!!」

「信じられマセン……??」

「え?」

本当に分かっていないようだなこの天パは……

「良いだろう、教えてやる」

「あ、あぁ、頼む」

まったく……何故こんな当たり前の事も知らんのだ

「で？、理由は？」

「あぁ、それは……

お前　（ティッキー）　（ティキポン）だから（？）」

「チクショーーーーー！！！」
「逃げんなよ？（黒笑）」
「ハイ、スンマセン」
「よろしい、さっさと終わらせろ」
「シクシク……」
「男のその泣き方はキモイ」
「ひでぇ！！」
「うるさいよティッキー」
「うがぁ！！」
「……悲鳴上げてる暇があるなら……」
「すいませんすぐやります！！！」
「よろしい」

なかなか面白いな、ノア一族との生活（主にティキ弄り）

## 疼　救出

だが……最近暇になってきた

ティキの頭が良くなってきたのだ

まったく……ティキは馬鹿だからティキなのだ

ティキから馬鹿を取ったら天パしかないぞ？

「いやいやいや、ノアの一族とか能力に関しては何も無いのか？」

「知るかそんなもん、天パしかない残り屑」

「ひでぇぇぇ！！！」

……五月蝿い馬鹿は放って置いてと……

最近体が疼いて仕方が無い

ギアルの狂気が求むのだ

血を

肉を

悪意を

敵意を
悲鳴を
憎しみを
断末魔を
死ぬ間際の罵詈雑言を

人殺しを

「……あぁ……そうか」
「畜生……うん？」
「そうかそうかそうだよな何故オレはそんな簡単な事にも気づけな

かったんだ」

こんな簡単な事にも気づけないとはな

さぁ………狂ウカ

「おい………？」

「キカカカカカカカカカカカカカッ、

そうかそうかそうかそうかそうかそうかそうかそうかそうかそうか
そうかそうかそうかそうかそうかそうかそうかそうかそうかそうか
そうかそうかそうかそうかそうかそうかそうかそうかそうかそうか
そうかそうかそうかそうかそうかそうかそうかそうかそうかそうか
そうかそうかそうかそうかそうかそうかそうかそうかそうかそうか

簡単だった容易だったすぐに出来たあっという間に消えた何故すぐやらなかったすぐに終わるのに

すぐやろういまやろうさぁやろう

始めよう」

「おい！！」

隣が五月蝿い………うん？

そうか、こいつに聞けばいいのか

答えろよティキ……

この狂気で体が疼いて仕方が無いんだ……

早く血肉を……鮮血を……飛び出た脳髄を……

浴びたい

「キカカカカカカカカカカカカカッ……ティキ」

「！？……なんだ」

「消シタイ国ハナイカ？」

「！！……なんでんな事を聞く？」

「答エロ」

「……あると言えばある」

「ホウ！！サァ言エ！！コノ狂気ヲ満タスノダ！！！」

「……ユーラシアにある国だ、何かおかしな宗教のせいで千年公がＡＫＵＭＡを作るのに使えない国と言っていた」

ほう……つまりＡＫＵＭＡを作れない国と言う訳か……

「キカカカカカカカカカカカッ、ダッタラ……オレガ壊シテヤロウ」

「！？……」

「答エハ聞イテイナイ、サラバダ」

「おい！！！」

はやく……はやく……ハやく……はヤく……ハヤク……

血ヲ……

ｓｉｄｅ　ティキ・ミック卿

なんだったんだあいつ……

突然狂ったように笑い出したかと思えば急に飛び出していきやがって……

いや、あいつは元々狂っていたな

しかし……

国を一つ消す気か……？

確かに俺らだってＡＫＵＭＡを送り込むなり自分で行くなりして国を滅ぼせる

だがあいつは俺を手も足も出ないほど圧倒して見せたのになぜ本人がわざわざ出向く？

そんな事しなくても国を滅ぼすなんて幾らでも出来るだろう

なぜ……？

……

……

……

……

……

……

……

「わからん」

まああんな奴の行動を見極められる奴が居たら出て来いって話だと俺は思うがな

「あ～♪ティッキー♪」

……ロード……ティッキーはやめろ

「ロードか、どうした？」

「ギアルはどこ？」

「あいつか？あいつは……」

天パ説明中

「……それって今エクソシストが任務に出ているって所じゃない？」

「まじか！？」

「うん、千年公から聞いた」

うわ……少年、御愁傷様……

冥福を祈っているぜ……

ってロード？何で扉を出す？

「アレン～！！」

「っておいどこ行く！！」

「アレンを助けにいく！！」

……惚れてるっつってたよな

千年公以外で初めてのキスも少年だったし

「……まじか……まあ一人位獲物が減ったってあいつも怒らないよな」

「いこっ！！ティッキー！！」

まったく……

「あぁ……（メンドクセー）」

## 到着　最期

「……言語は落ち着いたが……まだだ、まだまだだ、もっとだ、行くぞ、獲物共、その喉笛噛み千切ってやろう！！！！！」

キカカカカカカッ、もうすぐ着くな、これで狂気を満たせる

並列思考の結果エクソシスト達が此処に来ていることが分かった

が、途中で止めた

全てを知ってしまえば面白くない

これは短命の生き物でも通じる常識だ

人間の短い生でさえ狂わせるほどの退屈

そんなものいらん

中途半端が面白いのだ

まあ兎に角、来ているエクソシストが主人公級でなければ容赦なく

娯楽の犠牲となってもらうとしよう

主人公級だったらいたぶるか精々からかう位で済ませておこう

殺してしまったら色々と不味いだろうからな

原作が狂うのは面白くない

オレと言うイレギュラーが入り元々進む筈の物語が如何歪むのか興味深いしな

「キカカカカカカカカッ、悪く思うなよ獲物共、オレは何も悪くない、なぜならオレは正義だからな、お前らが死ぬのもオレに殺されるなら本望だろう？キカカカカカカカカカカカカッ」

無論これが凄まじい自己中心的考えで極悪所ではないのは知っている

だが……それを押し通せる力があるのだ

力なきは悪、力あるのが正義なのだ

即ちオレは正義となりオレが何をしても悪くは無い

正義に殺されるのなら本望だろう……？

さぁ……その血肉我に捧げよ！！！！

「此処か……久々の大量の獲物……否、オレとなっては初めてだがなんとも懐かしいと感じるな……どうでもいいな、さぁ！！狂化といこう……」

「キ……キキ……キカカカカカ……キカカカカカカカカ……

キカカカカカカカカカカカカ！！！！

黄金ノ毒蜜甘美ナル誘惑ヲ纏イ憐レナル者虜ニス！！

憐レナル者蜜ノ毒ト誘惑ニ犯サレ狂気ヲ孕ミ紅キ月ノ夜殺戮劇ヲ開催ス！！

劇三年ノ時開催サレ死者生者阿鼻叫喚ノ快楽ニ包マレ逝ク！！

快楽身ヲ蝕ミ終焉来タリ……

……

始マリノ夜ダ！！

血塗レタ英雄業火ニ焼カレソノ灰混ゼシ聖杯創ルニ五千年！！

聖杯汚泥ニ満チ麗シノ姫君ノ骸取リ込ミ紅ニ染マルニ一千年！！

更ニ贄ヲ捧ゲソノ汚泥飲ミ干シ昇華スル事更ニ一千年！！

嗚呼遂ニ汚泥其ノ躯犯シ醜キ骸腐乱ノ華ヲ咲カセソノ香リ汝等蟲螻ニモ劣ル餓鬼ヘト……カッカッカカカカカカカカ！！！キカカカッカカカカカッカッカッカ！！！

進化！！！

進化セシメン！！！！

我ハ神祖吸血鬼！！

汝等ノ血ヲ飲ミ尽クソウ！！

謳エ騒ゲ喚ケ汝等蟲ノ如ク！！

終ワレ汝等終焉ノ幕！！

粉砕破壊崩壊玉砕！！

壊壊壊壊壊壊！！！！

キ……キキ……キカカカカカカ……

キカカカカカカカカ！！！！

終ワレ滅ビロ壊レロ居ナクナレ消エロ消シ飛ベ死ンデシマエェ！！！

ツマラナイツマラナイツマラナイツマラナイツマラナイツマラナイ！！！

生キ物ナンテツマラナイ！！！

ツマラナイナラ壊レテシマエ！！

壊レナイナラ壊シテヤル！！！

キカカカカカカカカカカカカ！！！！

……嗚呼ナント無価値無意味無能無様無用無粋無用無駄ニ候……

是即チ破壊スベシ！！

怠惰デ愚カデ無意味ナ世界ニ終止符ヲ！！

泣キ喚ケ汝等豚ノ如ク！！！

逃ゲ回レ汝等餓鬼ノ如ク！！！

粉砕破壊崩壊玉砕！！

壊壊壊壊壊壊！！！！

嗚呼ナント面白クナイ面白クナイ面白クナイ面白クナイ面白クナイ面白クナイ面白クナイ面白クナイ面白クナイ！！！

皆々面白クナイ！！！

キ……キキ……キカカカカカ……

キカカカカカカカカカカカカカカカカカカカカカカカ！！！！！！！！

【ＥＮＤ　ＯＦ　ＴＨＥ　ＷＯＲＬＤ】！！！！！！」

《世界最期の日》

ｓｉｄｅ　ｏｕｔ

第三者ｓｉｄｅ

それは突然現れた

突然空中に現れ嗤い狂い嘲り叫んだ

それを見て人々の目に浮かぶのは恐怖でも嫌悪でもなく

崇拝、狂気

それほどまでに突然現れた者のカリスマは高かった

一瞬で何者にも負けず、己の信じるものだけを貫いてきた筈に民は

狂気に犯された

ただ突然現れ叫び嗤い狂っただけなのに民はその者を崇拝し崇めた

そしてその者が叫び終わった瞬間に自分達は死ぬと知っていたにも
拘らず動かなかった
ただその者を見ていたかったのだ
恐ろしくなど無い、あのような御方を我が目で見られて私は幸せだ
それが民の統一された思考
己の身体すら消す力が解放されようとも敬い崇める

そして誰も居なくなった

## 到着　最期（後書き）

あ～どうも、作者代理の漆黒だ
この小説で出るのは始めてだな
まあとにかく……
今回のギアルの狂化後のセリフだが
今後何回も使うらしい
作者曰く参考にしたものはあるがそれすらもきつかったらしい
因みに参考にしたのは分かる人には分かるぞ
んじゃ、また次回
……オレが出るかは知らんがな

## 狂神　転生

キカカカカカカカカカカカ……

嗚呼……満たされる……

この血、魂、身体に纏わりつく匂い

そしてこの人骨で作り上げたコップの中になみなみと注がれた血の味……

これだけがオレの狂気を満たしてくれる……

素晴らしい絶景を見つつ啜る血というのは絶品だな

この身体での初めての飲血だが心地良いな

だが……本当の姿になってしまったか

これこそがオレがギアルになる三日前に付け足した設定

『狂殺神・ギアル・レヴィン』だ

１９５?の身長は更に伸びて２１５?にまで高くなった

後ろに縛ってある髪は漆黒から真紅へと染まり

手袋をはずしてある手は３０ｃｍはある巨大な手で指が殆どを占める
その爪は赤く染まりギアルが切り裂いた血が染み付き常に血の匂い
が漂う
肩には鎧の肩当の様な物が付きそこから純白のマントが垂れている
マントは前面も覆っており、間が３０?ほどしか無く周りは完全に
覆われている
そして最大の変化
それは顔
左目は濁った血の色一色に染まり
右目は黒目は鮮血の鮮やかな紅、白目は左目と同じ濁った血の色
口の中の歯は全て牙となりあらゆる物に噛み付けるほど鋭い
そして目と口から常に
血が流れ続けている

これがギアルとなる前三日前に付けた新たな設定だ

はっきり言って此処まで凄いとは思わなかった

先程まで感じていた力など屑にも劣る、存在しないと同義と感じてしまうほど漲る力

何一つ不自由な事などない全てが思い通りに動く身体

狂気が物質化して周りにオプションとして漂い始める

これら全てがオレの思い通りに動き、例え狂殺神になる前のギアルといえども

触れた瞬間にその存在を消去されてしまうほどの狂気だ

何もかもオレが望むように動き形から密度、質量までが思い通りになる

あぁ……最悪最低最強最狂最恐の存在……

まったく……心地良いにも程があろうに……

さぁ……さぁさぁ……さぁさぁさぁさぁさぁさぁ！！！

エクソシスト達は残しておいたんだ！！！

来い来い来い来い来い来い来い来い来い来いぃぃぃぃぃぃぃぃ！！！

オレを愉しませろ蟲螻どもぉぉぉぉ！！！

said　アレン・ウォーカー

………なんですかこれは………？

列車が途中で止まったかと思ったら到着予定の駅の方向から煙が………

嫌な予感がします

「おい、モヤシ、さっさと行くぞ」

「アレンです、恐らく町は崩壊していると考えたほうがいいでしょうね」

「ハッ！！どーせレベル３か４だろ」

「零次さん、あまり油断しないでくださいね」

「ふん」

この人は闇神（あんしん）　零次（れいじ）さんですが……

妙に僕達の事を知っていますし何か変なイノセンスでもない力を持っていますし……何かがおかしいと思うんですが……

「さっさと行くぞアレン」

……妙に馴れ馴れしいですし……

何者なんでしょうか……？

ｓａｉｄ　ｏｕｔ

ｓａｉｄ　転生者

俺は山崎　信二

所謂転生オリ主って奴だな

今の名前は闇神　零次

死んで神様の手違いって事でチート転生って奴をすることになったが……

Ｄグレって……恋愛フラグ立てようにも何も出来ないし死亡フラグ乱立じゃん……

しかもさ……他の漫画とかだったらさ、ストーリーで重要なことが無ければ死亡って分かるだろう？

だが……Ｄグレは任務というのがある

しかも俺は転生者、何があるか分からない

モブのように普通の任務で殺される可能性もあるし主人公級のように漫画で出てきたシーンでなければ死なない可能性もある

まったく……あの神様も教えてくれるナリしてくれれば良いのにな……

まあ……無い物ねだりしても意味はないか

え？アレンに対して外道転生者臭がプンプンしていた？

いや……そのつもりは無いぞ？

まあいいか

俺が神様から貰ったチートは

『身体能力常人の百倍』

『イノセンス指定』

『頭脳コムイ級』

『バハムート召喚』

『並列思考』

このぐらいか

因みに指定したイノセンスは俺のオリジナルだ

『大聖剣』だ

外見は真っ白い片刃の大剣で紅い文様が刻まれている

全体的に無骨な感じで飾りは一切無い

戦闘に特化しているにも関わらずに無駄のない美しさがある

技は

【戦場の乙女（ヴァルキュリー）】

【最強の剣（エクスカリバー）】

【外道の剣（ダーインスレイブ）】

まあ……こういう事になったんだ、思いっきり痛くたっていいじゃないか

だが……アレンも感じてるようだがどうも嫌な予感がする

確かに本当の世界に来たのならさっき言ったように漫画には無い任務があるのは確かだ

だが……国一つ消えるほどのことだ、漫画に無いなんておかしいだったら……俺が此処に来たせいでおきた新たな事件か……？

俺の他に来た奴が居るかもしれないが可能性はあまり高くは無いだろう

……考えても仕方ないな

今は任務に集中するとしよう

神曰くヤバい奴が居るらしいがまあ……此処に来る可能性は低いといってたしな

兎に角頑張るか！！

## 惨状　参上

……成程

まさか転生者が居るとはな……

面白い、ならば全員主人公級と考えていいか

少々残念だが仕方あるまい

まあ後々の楽しみが増えるし良いか

まずは最低限の本気で行くとしよう……

この程度なら死にはしないだろう

キカカカカカカカカッ

さぁて……殺す気で来て欲しいな……

来いよ主人公達

その心崩壊寸前まで追い込んでやろう

ｓａｉｄ零次

……酷い

「何ですかこれは……」

「……ひでぇ」

アレンが言う事も理解できる

見えるのは全て壊れている

建物は黒く焦げたりドロドロに腐敗したり爛が入り割れたり凍りつき冷気を放つものなど混沌としている

それは全てに当てはまる

人間、建物、ＡＫＵＭＡ、全てが壊れ殺戮されている

本当に……なんだこれは

「……モヤシ、餓鬼、調べるぞ」

「……ハイ、それと僕はアレンです」

「わかった……それと餓鬼って言うな……」

って……まじかよ……

「ＡＫＵＭＡまで壊れているとはな……レベル４もあるぞ」

おいおい……一体どころじゃなくて十体はいるぞ

しかもどれもこれもどう見ても完全に破壊されていて万に一つも再起動はしないだろうな

こんな事できるのは

「ノア……か？」

「いえ、それは無いと思いますよ、幾らノアと言えどかなりの戦闘能力を誇るレベル４を捨て駒にはしないと思います」

む……確かにな

元帥すら一時てこずったレベル４

しかしそこまで数が多いとは思えない

だったらそんな物を捨て駒にせずに寧ろレベル４十体でも国一つ壊せるのではないか？

なら誰が……

「まずは首都へ行きましょう」

「「「あ……」」」

「……忘れてましたね絶対に私の事忘れていましたね！？」

「い、いえいえ忘れてなんていませんよリンク！！ねぇ零次さん！！」

やべ……俺も忘れていたぜ……

「あ、あぁ勿論だ、忘れてなんかいないぞ」

「……まあ良いでしょう、とにかく首都へ行きましょう、ゲートは国に対して何か損害があった場合許可されています」

「わかりました」

「……何時でも戦闘の準備はしておけ」

「わぁってるっつの」

「チッ……」

さて……鬼が出るか蛇が出るか

行ってみるか！！

ｓａｉｄ　ｏｕｔ

ｓａｉｄ　第三者視点

「うわ……なんじゃこりゃ……」

「う……うえっ……ゴボッ！」

「おいアレン！？」

「ウォーカー！？」

ゲートから出てきた途端にアレンが吐いた

見えない方がよっぽど幸せな光景を見てしまったせいで

「はぁっはぁっはぁっはぁっ……うえっ……」

「おい、大丈夫……ではないから吐いてるんだよな……」

「ウォーカー？何か見えたんですか？」

必死に二人が気遣うがアレンはそれに気づかない

「あ……あく……」

ただショックを受けすぎて周りが見えないだけ

だがレベル４の魂を見ても吐きはしたがこれほどの状態にはならなかったアレンに完全に自身喪失状態に追い込むほどのショックを与えてきたと言う事だ

「？」

「ＡＫＵＭＡの……魂が……」

「ＡＫＵＭＡの魂が？」

そこまでショックを与えた光景

それは

「お互い操られ共食いしている……」

「何？」

零次が何かを聞こうとした時にソレは現れた

突然現れ神田をぼろぼろにした男

遠くない未来己にトラウマを刻み込む男

そして

「キカカカカカカカカカカカカカカカカカカカカカカカカカッ、よぉやく来たか、エクソシスト共」

「「「！？」」」

「……貴方は………！！！」

「久しぶりだなぁ………白髪の少年」

「てめぇ………！！」

「キカカカッ、雑魚侍もか」

「………！！！」

「キカカカカカカ………キカカカカカカカカカカカカ………」

キカカカカカカカカカカカカカカカカカカカカカカカカカカカカカ！！！！！！」

誰もが一瞬で絶対に勝つことが不可能と悟らせる悪魔を超えた正義の出現だった

## 鬼戯　杭撃

「え……？」

「やっぱりてめぇか……！！」

「キカカカカカカカッ、そう怒るなよ、相手してやっからさ」

「その姿は……？……いえ、そういう問題ではありません！！これをやったのは貴方ですか！？」

キカカカカカカッ……何を……愚問を……

「キカカッ、俺以外にこんな事する奴が居たら教えて欲しいね、白髪の少年」

「……！？……まさか……」

「うん？……ほう……なかなか全員生きがいいな、楽しめそうだ」

どうやって嬲ってやろうか？

いや、どうやって絶望させるか？

否、どうやって……刻み込むか……かな？

キカカカカッ、いいねいいねノってきたぜぇ

「……」

……うん？

転生者か？

どうした？

「零次さん？」

「おい……全員逃げろ……勝てない」

……なんだと？

「……何？」

「勝てないんだよ、全員逃げろ！！」

「……貴様、オレの楽しみを奪う気か……？」

許さん、許さん許さん許さんぞ！！！

キカカカカカカッ！！！！怯えてそのまま死ぬが良い！！

我が狂気に当てられ生きてはいまいな

「……カッ……」

「グガッ！？……逃げ……ろ」

……耐え切った？

たかが転生者が？

……予定変更か

どこまで逃げられるか遊んでやろう

「……キカカカカカカッ！！！！捕まえたら発狂しても拷問してやろう！！！さぁさぁさぁさぁ早く逃げろ！！！キカカカカカカカカカカッ！！！」

「ギリッ……」

キカカカカカカカッ、自分一人が囮にでもなる予定だったのか？

まったく御目出度い奴だ

その場合は捕まったら死よりもつらい拷問が待っている鬼ごっこに決まっているじゃないか

当たり前の事だ、キカカッ

「さて……少しハンデをやろう……お前たちに対して出せる本気でやってやろう、本来なら耐え切れないぐらいでやっても良いんだぜ？」

さぁ……ギアル第一武器の登場か……

「……囮になろうかと思ったが無理だ、こうなったら全員ただただ全力で走るぞ、ゲートも恐らく開かせる暇も無い様に調整して来る筈だ」

「えぇ……恐らくそうでしょうね」

「チッ……」

「……縛り羽も恐らく効きません、闇神の言う通り走って逃げる他無いようです」

全員諦めたようだな、さて……デスゲームの始まりだ！！！

said out

ｓａｉｄ　アレン・ウォーカー

もはやあの人を人として称してはいけない

だが神として称しても当てはまらない

もはやアレとしか言いようがありませんね……

恐らくぎりぎりで逃げ切れるか最後の最後で捕まるかの二つでしょうか

アレは常に自分を愉しませろと言っていましたしこの予測は当たっていると思いますが……

なんですかあれは……見たことも無い武器ですね……

えーとどこかのカレー大好きシスターの聖典武装みたいな……

ってどこからか電波が来ましたが……たしか……パイルバンカーでしたっけ？

そんな武器ですが……

あれは不味いですね

当たったら一撃死の威力です

幸い速さを殺して威力を上げるタイプのようですが……って！？

「キカカカカカカッ！！！ほらほら行くぞぉ！！しっかり避けろよぉ！？」

あっぶなぁぁぁぁぁい！！！！！

ガコン！！！！……チャキン

なんですかあれは！？

あんなの一発食らえば体が吹き飛ぶじゃないですか！！！

しかも異常に速いし！！！

「キカカカカカカカカカカッ、まだまだぁ！！！」

うわわわわ！？なんですかあのチートは！？

あんなの振り回しておいて隙がまったく見当たりませんよ！？

あの武器自体も当たったら鈍器になりますし杭で撃たれたら即死ですし……

必死で逃げるしかないじゃないですか！！！

……なんとしてでも逃げ切ります

全員生きて帰って見せます！！！

「皆さん！！！僕が殿を務めます！！！急いでください！！」

「チッ、この馬鹿！！！あの威力を見ただろうが！！！殿なんざ関係ねぇ！！兎に角走る！！それだけだろうが！！！」

「今回は闇神に賛成ですウォーカー、兎に角走るのみです」

「……分かりました」

「キカカカカカカカッ、お喋りは終わりか？なら早速始めようじゃないか！！！生死を賭けた鬼ごっこをな！！！！」

逃げ切ってみせる……！！！

## 鍔迫　傍観

「キカカカカッ、どぉしたどぉしたぁ！！？もっと走れるだろう！？」

チッ……なんなんだよ……

なんなんだよあいつは！？

こんな事する奴なんて原作には居なかったし異常に強すぎる！！！

俺と同じ転生者か！？

畜生！！はっきり言って、いや、はっきり言わなくても勝てねぇ！！

なんなんだあの転生者！？

《否》

！？

《かの者転生者に非ず》

何！？……神か！？

《肯定、かの者狂殺者也》

狂殺者……？

《謎の存在にして永久の不滅、その浴びた血は世界を飲み込むとすら謳われる》

なんだよ……それ……

《我等が全能力をもってしても封ずる事すら不可能、その力、圧倒》

諦めろってか！？

《否、かの者娯楽を好む、かの者が指定した娯楽を》

どういう事だ？

《かの者娯楽を好む、汝等を消す、即ちかの者の娯楽に反する、故に死にはしないが、他の者は玩具にも劣る道具同然、故に一切の躊躇いなく消す》

娯楽……？暇潰しで此処を壊したのか！？

暇潰しでこの国の人間を殺したのか！？

《かの者自らをこう称する、『絶対正義』と》

はぁ！？何が正義だ！！！

正義なら人を暇潰しで殺す事は無い！！！

《かの者は言った

【世界の理の一つ、力なき敗者は悪となり、力を持つ勝者は正義となる、即ち自分は絶対の正義の持ち主だ】と……》

……ふざけてやがる……

《かの者に挑むな、後悔などはしない、なぜなら感じる刹那もない程の苦しみを超えた苦しみが待ち受けている》

じゃあどうすればいいんだよ！？

《逃げよ、それ以外の選択肢など存在しない》

……畜生！！！

《……かの者を止められる者は存在しない、諦めよ》

……

「キカカカカカカカカッ！！！考え事とは余裕ぶっこいてんな！！！」

！？

《右だっ！！！》

くっ……このぉ！！！

「【戦場の乙女(ヴァルキュリー)】！！！」

said　out

said　第三者

零次が放ったイノセンス、大聖剣の技【戦場の乙女(ヴァルキュリー)】は簡単に言えば大量の細身の剣を相手に飛ばす技

数で勝負に技である

本来ならその大量の剣で貫かれ消滅するのだが……

「数で勝負か！？キカカカカカカッ！！！！一人軍隊（ワンマンアーミー）を見せてやろう！！！」

嗤い続けるギアルの前には無駄だった

「カッカカカカカッカッカッカッカッカッカカカ！！！！」

外れた嗤い声を上げるギアルがその純白のマントを掴み振るう

それだけで全ての剣が砕け散った

「さぁさぁ行くぜぇ！？精々穴だらけにならないようにな！！！」

「なんですかあのマント！？アレだけで零次さんの【戦場の乙女（ヴァルキュリー）】を壊すだなんて！？」

「キカカカカカッ、特別なマントでな、オレのお気に入りで絶対に誰にも渡さん」

「いらねぇよ、それにも血が染み付いているんだろ？」

ギアルは突然立ち止まり俯く

その身体から黒い霧のようなモノが流れ出し凄まじい勢いで回りだす

「……これ程の狂気が有りながらこのマントに血を付けた事は無い」

「何……？」

「キカカカカカカカ……理由は今は教えん、今は鬼ごっこに集中しようじゃねぇか」

「てめぇは……これがゲームだっつーのか？」

「キカカカカカカカカカッ！！！！愚問だな！！！俺にとって存在するもの全ては蟲螻（使い捨て玩具）！！！何もかもが暇潰し！！！！おらおら行くぜ！！！！」

叫び終わった瞬間ギアルが飛び出す

その手にあるパイルバンカーが狙うは……

アレン・ウォーカー

「くっ！！」

ギアルのパイルバンカーを避けてクラウン・クラウンでの爪で切り裂こうとするが打ち出した衝撃がある筈なのにそのままパイルバンカーを振るい受け止める

「くぅぅ！！」

金属同士がぶつかり合う音が響き渡る

イノセンスはＡＫＵＭＡを倒すための武器、故にその攻撃力は凄まじい

本来ならどんな金属だろうが簡単に破壊できるだろうがギアルのパイルバンカーは違った

鍔迫り合いになるがアレンの分は悪い

先程の攻撃で腕が痺れてしまった上にパワーは相手のほうが上

だがアレンにも優位な部分もある

鍔迫り合いで上になる事はかなり優位となる

それにギアルが使うのは金属の塊に近いパイルバンカー

重量はかなりのものである
だが……
「キカカカカカカッ！！！」
「グアッ！？」
ギアルにそんなものは枷とはならない
弾かれて反ってしまったアレンに後ろに回りこみ蹴り飛ばす
吹き飛んでゆくアレンをそのまま無視してギアルは零次に向かう
転生する前は一般人だったとはいえ今はこの世界で生きてきたエクソシストである零次はなんとか向かい合う事は出来る
だがそれだけしか出来ない
大聖剣は構えてはいる
しかし切っ先が震え定まらない
「震えているな……怖いか？恐ろしいか？逃げたいか？降参したいか？そして何より……

死にたくないか？生きたいか？」

「あ………うぁ………」

「キカカカカカカカカッ………その希望………完全に………粉砕破壊崩壊玉砕………してやろう………さぁ………来い………来い来い来い来い来い来い来い来い来い来いぃぃぃぃぃぃぃ！！！！」

叫んだ瞬間ギアルの周りの物質化した狂気が零次を除いた全員に襲い掛かる

「ぐぅ！？」

「がはっ………」

「あがぁ！？」

一瞬で己を除く全員を気絶させて見せたギアルに一人向き合うのは転生者、零次ただ一人

「ひぃ！？」

「お前の持てる全ての力を全身全霊全力全開、開開開開開開開開開開開開開ぃぃぃぃぃぃぃぃぃぃぃ！！！！！　キカカカカカカッ、かかって来い！！！！」

「死にたく…………ない…………」

「ならば来い！！！死にたく無ければお前の持てる全ての力をぶつけて来い！！！」

「…………………行くぞ」

「そう来なくてはなぁ！！！来い！！！」

これより始まるは一方的な戦闘とも言えないＯｎｅ　ｓｉｄｅ　ｇａｍｅ

生き残ることは優先されずにただ我武者羅に戦う事のみが求められる

狂殺者の目に留まらなければ死

介入者と向き合うは転生者

主人公達は全員が気絶している

そして助けに向かうは宿敵、ノア

この事件はどうなるか……

それは神も知らず、ただ傍観しか出来ない……

**静寂　出演**

「キカカッ！！！」

「あぁぁぁ！！！」

パイルバンカーが振るわれ大聖剣が踊る

ぶつかり合う狂気の凶器と救いのツルギ

「カァァァァァァァ！！！！」

「ぐぅあ！？」

しかし大聖剣といえども相手が使うは金属の塊パイルバンカー

重さは完全に相手の方が上

長さは大聖剣の方が勝ってはいるが完全パワー重視で攻撃を受け止めるには相手のパワーが強すぎて流す事しか出来ず

ステータスはどちらかと言えば素早さを殺して力を上げているがギアルの攻撃には紙切れ同然の零次

リーチは短いがパワーと防御力の双方が凄まじく身体能力のみで全ての短所を消去

全てのステータスがバランスなど関係なく測定不能を超えたギアル

勝負などありはしない
一方的に嬲られるだけ
勝利条件は愉しませる
それだけ
「キカカカカカカカッ！！！まだだ、まだまだオレは愉しんでいないぞ！！！」
「くぅ……糞っ……」
必死に大聖剣を振り回すが殆どは避けられ弾かれ流される
「突き！！！」
「カカッ！！オレに対して点の攻撃か！？キカカカカカカカカカッ！！！」
「まだだ！！」
アレンから聞いていた穴による攻撃返しを手甲で防ぐがすぐにパイルバンカーを使ってくる
打ち出してくる杭を何とか避けてその間に何とか大聖剣を振るう
「キカカカカカカカカカッ！！！！」

だがそれは振るわれたマントに弾かれる

「Ｌｅｔ、ｓ　ｍｙ　ｔｕｒｎ！！」

ギアルの振るったマントがそのまま零次の方向に伸びてくる

意思を持って襲ってくるように見えるがこれはギアルの魔力によって強化されたものでこれ位はお手の物である

「くっ……！」

なんとか先端が刃のようになったマントを弾くが思い切り体が反れてしまい隙だらけとなってしまう

だがそれをギアルは無視する

「舐めやがって……！！」

「キカカカカカカッ！！！そんなに死に急ぐな、つまらんだろうが！！！」

ギアルは見逃した

もし攻撃すれば絶対に殺せた致命的な隙を

「くそっ……」

「愉しんでいないと言ったろうが！！！」

ギアルの猛攻が始まる

パイルバンカーを打ち出さずにそのまま少し出ている杭を刺そうとし、避けられれば蹴りを放つ

蹴りを避けたと思った瞬間頭に激痛が走る

「がっ……あっ……頭突きって……ありかよ！？」

「かーっ！！！お前石頭だなオイ！！痛くはないが衝撃は凄かったぞ」

「この……反則が……」

「反則？そんなもの敗者の負け惜しみだ、勝負に反則も何もない、ただ相手を倒し蹂躙し踏み潰すのみだろう？」

「……」

「キカカカカカッ、行くぜ！！！」

再びギアルの攻めが始まる

だが零次は先程のギアルの頭突きによって軽い脳震盪を起こしてしまった

そんな状況で耐え切れるはずもない

だが……

「十字架ノ墓（クロスグレイブ）！！！」

「六幻抜刀！！！」

「縛り羽！！！」

「ほう……【静寂（デッドサイレント）は死を満たす】！！！」

アレンたちが意識を取り戻した

しかし何とかできた攻撃もギアルによって無効化されてしまったが

「おい！？お前たち！？逃げろ！！敵う相手じゃないっつったろ！！」

「それは貴方もでしょうが！！！」

「今エクソシストが欠けてしまっては不味いのです、なんとしてでも帰還してもらいます」

「俺はあいつをぶった切りたいだけだ」

「神田は神田で放って置いてだ……勝てねぇぞ！！」

必死に三人を止める零次が突然飛びのく

「……なぁ……敵の眼前で何時までおしゃべりしているんだ？」

先程零次がいた場所には棘が突いた鉄球があった

ギアルが穴から打ち出したものだ

「くっ……そういうのは待ってくれるのがお約束だろう」
「キカカカカカカカカカッ！！！！！……いいだろう、一つ教えてやろう」
「何？」
「約束、掟、ルールってのはなぁ……」
「……」
「破るためにあるんだぜ！！！【狂気の出演者（インサニティキャスト）】！！！」
ギアルが叫んだ瞬間その身体から物質化した狂気が溢れ出し形を作る
それは二つあり片方は幼子のような奇妙な翼を持つ小さな人型
もう片方はマントを着た長身の人型
それが出来た時
黒い人形たちは口を開く
「早く遊ぼうよ、弾幕ごっこで……」
「命の保険は掛けたかね？」

新たなる狂気の出演者が登場する

## 虚言　禁忌

おいおい……なんで……

フランドールにワラキアの夜が出てくるんだ！？

いや、確かに両方凄まじい狂気の持ち主だし

あいつは神祖吸血鬼って叫んでいてこの二人は吸血鬼だが……

無理だろ！！！！！！！！！！

勝てるわけねぇだろ！！！！

なんかギャグパートっぽくなったけど！！！！

「何時まで突っ立っているつもりかね？ただ立っているだけでは観客が飽きてしまうではないか」

うん、ワラキアだ……劇関係のセリフが物凄く合っている……

「早く早く！！」

フランドールは幼い感じだが威圧感半端なく高ぇ……

「キカカカカカカカッ！！！【テレポホール】！！！」

ってオイ！？

「なっ！？」

「ッ！？」

……オイオイオイオイオイオイ……

神田とリンクが穴に落ちた……

俺とアレンの二人でこの二人と戦えと？

「キカカカカカカカカッ、観客はオレ一人で十分だぜ、さて！！本番前の予行練習といくか！！！」

……無理だろぉぉぉぉぉぉぉぉぉ！！！！

って……え？

なんかワラキアの周りに黒い霧みたいなのが……

ってこれって！？

膨大な魔力で悪性情報が具現化ってやつかよ！？

「キ…キキキキキキ！！！！

魂魄（コンバク）ノ華爛（ハナラン）ト枯（カ）レ

杯ノ蜜ハ腐乱ト成熟ヲ謳イ

例外ナク全テニ配給

嗚呼是即無価値ニ候…

蛮脳ハ改革シ衆生コレニ賛同スルコト一千年！

学ビ食シ生カシ殺シ称エル事サラニ一千

麗シキカナ毒素遂ニ四肢ヲ侵シ汝ラヲ畜生へ進化進化進化

進化セシメン！！！

カカカカカ…カ・カ

カット！！

カットカットカットカットカット！！

リテイク！！！」

「な……！？」

……マジ戦闘モード！？

しかもこれ漫画版！？

たしかあれって……ゲームと違って志貴達が殆ど手も足も出ない状況だったような……

という事は……このワラキア、本物より強い？

やばいやばいやばいやばいやば

「ギュッとして……」

って！？ヤバい！！！

「ドカー「【戦場の乙女（ヴァルキュリー）】！！！」うわ！？ひどいよ～」

ひどいよ～で済むか！！！

能力まで再現してんのかよ……

しかもさっき弾幕ごっこって言ってたよな……？

弾幕ごっこって殺さないような……

「なんなんですかあの二人は……？」

俺も誰だかは知っているが聞きたいよ……

「さぁ！！！狂気劇の始まりだ！！！」

「キキキキキキ！！！」

「ハヤクコワレナイデネ？」

……ダブル狂気吸血鬼……

しかも片方は恐らく本物より強化されていてもう片方のチート能力も再現されている

こちらも神に頼んだチートはあるが常人百人集まったってこの二人に勝てるわけないしバハムートなんか召喚したらアレンが思いっきり目撃者

……詰んだんじゃんね？コレ……

「キキキキキキ！！！」

「うおわ！？」

「カット！！」

バッドニュースきた！！！

見れて感動した！！！

でも相手じゃ最悪！！！

「【禁忌　レーヴァテイン】、白髪のお兄ちゃん？頑張ってね？」

フランドールはアレンか……

「ちょ！？零次さん！？」

「俺はこっちをやる！！！お前はそっちを任せた！！」

「え！？いや、僕はでも見かけが……」

「よそ見している暇があるのかね！？集中したまえ！！」

「どわ！？こっちはこっちで忙しいんだよ！！ずべこべ言わずにそっちはそっちでやれ！！」

「えぇ！？」

「いくよ！！簡単に壊れないでね？」

「く……いきます！！！」

んじゃ俺は俺で集中するか！！

「いくぜ！！ワラキア！！！精々劇に華を添えるように頑張りな！！！」

「フッ、ならばこちらもそうさせてもらおうか！君も頑張りたまえ！」

「キカカカカカ……素晴らしい劇だな……楽しみだ……

ＢＡＤ　ＥＮＤがな……」

## ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

---

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n2183w/

---

眼が覚めたら自分の作ったオリキャラになってた!?

2011年10月29日04時15分発行